

POETRY AND LYRICS
MY SHISHU

隔月刊 マイ詩集

特集 中山めぐみ作品集

隔月刊 POETRY & LYRICS

MY詩集

テーマ特集 ポーカーフェイス／電話

2010 9月号 (VOL. 376)

テーマ作品特集

Pokerface Telephone
ポーカーフェイス／テレフォン

9月号
 定価 580円

定価**580円** 本体**552円**

雑誌 08395-9

〒332-0015 埼玉県川口市川口4-3-18

MY詩集 編集部
 TEL 048・241・7750

©MY詩集編集部 2010 編集発行人 マイ詩集社 熊谷ゆき



女優

中田ひかり

私は舞台女優
今度の役は悪女
男達を手玉に取って
ポーカーフェイスで切り捨てる

足にしがみついた男に蹴りを入れて
煙草をふかすの

「君とはもう会わない」
昨夜のアイツの捨て台詞
頭に焼き付いてるわ

私は舞台女優
涙は見せないの
男達をあやつる悪女
ポーカーフェイスで切り捨てる

泣きつく男にワインをかけて
煙草をふかすの

「君とはもう会わない」
昨夜のアイツの捨て台詞
アイツの背中覚えてるわ

私は舞台女優
ファンが待ってるの
どんな時でもポーカーフェイス

本当は泣きたい気持ちでいっぱいよ……

MY詩集同人(発表メンバー)募集	103	作品募集案内	100	MEMBERS INDEX	98	月灯りの下で	92	夢色茶房	90	ファンレターBOX	82	Poetical Works 2010.6.1→6.20	68	フリーショップCDシリーズ	67	SONGWRITING BASIC	65	作詞ワークショップ	49	Lyrics 2010.6.1→6.20	48	テーマ作品特集：テレフォン	38	Thirty-one syllables	35	中山めぐみ 詩作品集 五稜郭の君	26	詩作談話室 あとりえぼえむ	24	テーマ作品特集：ポーカーフェイス	2
				詩と作詞・作者別索引		結城 遥		仁美				自由詩				作詞の基本		有海 治雄		作詞				短歌			熊谷ゆき				

次のMY詩集 11月号(377号)は 9月26日ごろ発売

次号掲載の原稿・広告などのメ切……8月20日

定期購読……P.100 バックナンバー・リスト……P.97

デモCD制作INFO&既刊案内……P.67 個人作品集号INFO&既刊案内……P.96

メール送稿……P.94 同人専用INFO……P.95 原稿募集一覧……P.100

MY詩集同人・入会のご案内……P.103

表紙……… 蛭田賢一 Kenichi Hiruta

〒332-0015 埼玉県川口市川口4-3-18 MY詩集 編集部

Phone&Fax 048-241-7750

編集発行人・熊谷ゆき Yuki Kumagai

editorsroom5@my-shishu.com

http://my-shishu.com

テーマ作品特集 Pokerface

Label Me Not

北斗恵惟

Poker Face と呼ばないで
無表情なのは恐怖を感じているから
いつも崖っぷち ギリギリの勝負だから
表情を作ってる余裕なんてないの

Ice Doll と呼ばないで
淡々と見えてても実際のところ
やってる方は寿命を削る思い
冷静を努めないと精神がもたないわ

Cool Beauty と呼ばないで
気取っているつもりはないの
廻りがそうやって決めつけて見てるだけ
一人きりの時にだけ表情を緩めるの

自分でも分かっているわ損な生き方だって
Royal Straight Flush なんて狙えない
せいぜい Full House がいいとこね



人妻

石井美和

待っていたのよ いつもの 内緒のメール
待ち合わせには いつもの あのお部屋ね

貴男のハートを 素肌にまとい
私は舞い姫 秘め事を 舞う

屋下がりの スコール 愛の嵐
声も 心も 濡れて

屋下がりの スコール 愛の嵐
このまま いつまでも どこまでも

偶然会っても いつもの ポーカーフェイス
素顔になるのは 週一度 この部屋だけ

貴女の熱い 吐息の中で
僕は夢見る ミルク色の 夢

屋下がりの スコール 愛の嵐
声も 心も 濡れて

屋下がりの スコール 愛の嵐
このまま いつまでも どこまでも



ポーカーフェイスのまま

蒼月 夢

クールな顔して 優しいひと言
「今日もゆっくり 眠れるといいね」

おいしい料理と おいしいお酒
店を出る時の そのひと言
言ってくれるのは 君一人だけ
そのひと言を 聞くだけで
肩の力が 抜けてくる

ほろりと酔って いるけれど
そのひと言が あるだけで
夢の世界に 入れそうな
そのひと言を 聞けない夜は
薬を飲んでも 眠れない

ポーカーフェイスで クールな君に
初めて伝えた 「ありがとう」

おいしい料理と おいしいお酒
店を出る時に そのひと言
伝えたら君も 嬉しそうだった
私もとても 嬉しくなって
足取り軽く 帰り道

何気に優しい ポーカーフェイス
いつでも君は ポーカーフェイス
イケナイ イケナイ 好きになりそう
朝まで君と 眠りたいけど
私も今は ポーカーフェイス

ポーカーフェイスのまま
ポーカーフェイスのまま……



アイドルはポーカーフェイス

こわれた髪飾り

今どきの黒髪

アイドル風のヘアスタイルが流行ってた頃

私はザンバラ髪で

やけにスマイルが目立ってたらしい

心の中の孤独隠して

涙なんか見せるものかと

ドン底から微笑んでみせた

アッパーパンチくらった失恋の直後

誰かが見初めてくれた

ド根性で見せた笑顔

あれからどうして

今でもひとりだけ

あの人は恋人かしら

素敵なお方ね

もう少し時が過ぎたら

歩み寄れるのかしら

だけど……

クエスチョンはそのまま

アイドルはポーカーフェイス

愛する人の前では

きちんとしていたかったのに

こんなにも泣き崩れてしまっなんて

乱れた髪をかき上げてくれる

あなたの優しい手に

素直にすがってしまっほど

私は弱い女だったの

大空を飛び回る鳥達が

それぞれ巣へ帰って行くように

私はあなたの元に戻って来たのね

意地悪な手紙を書いたり

陰で笑いにしようとしたり

嫌われても当然だった嘘つきの私

でもあなたはいつも素晴らしかった

私の仮面を見破って

本当の愛を教えてくれた

閉ざされた心の鍵を開いてくれたあなた

伴せに形は無いといっ

あなたの言葉の意味が

今やっと分かるような気がします

黒髪で通す女は

「今時の若い娘可愛いね」

鬢りのある笑顔で言う

単純明快染めればいいのに

内心そっ思ってる自分でも

飾り気の無い長い髪

こだわってるわけじゃない

本当は超派手な性格

エスカレートするのが怖いだけ

黒い髪だっこなもんよ

紫式部気取りで

光源氏と思す美男操りつつ

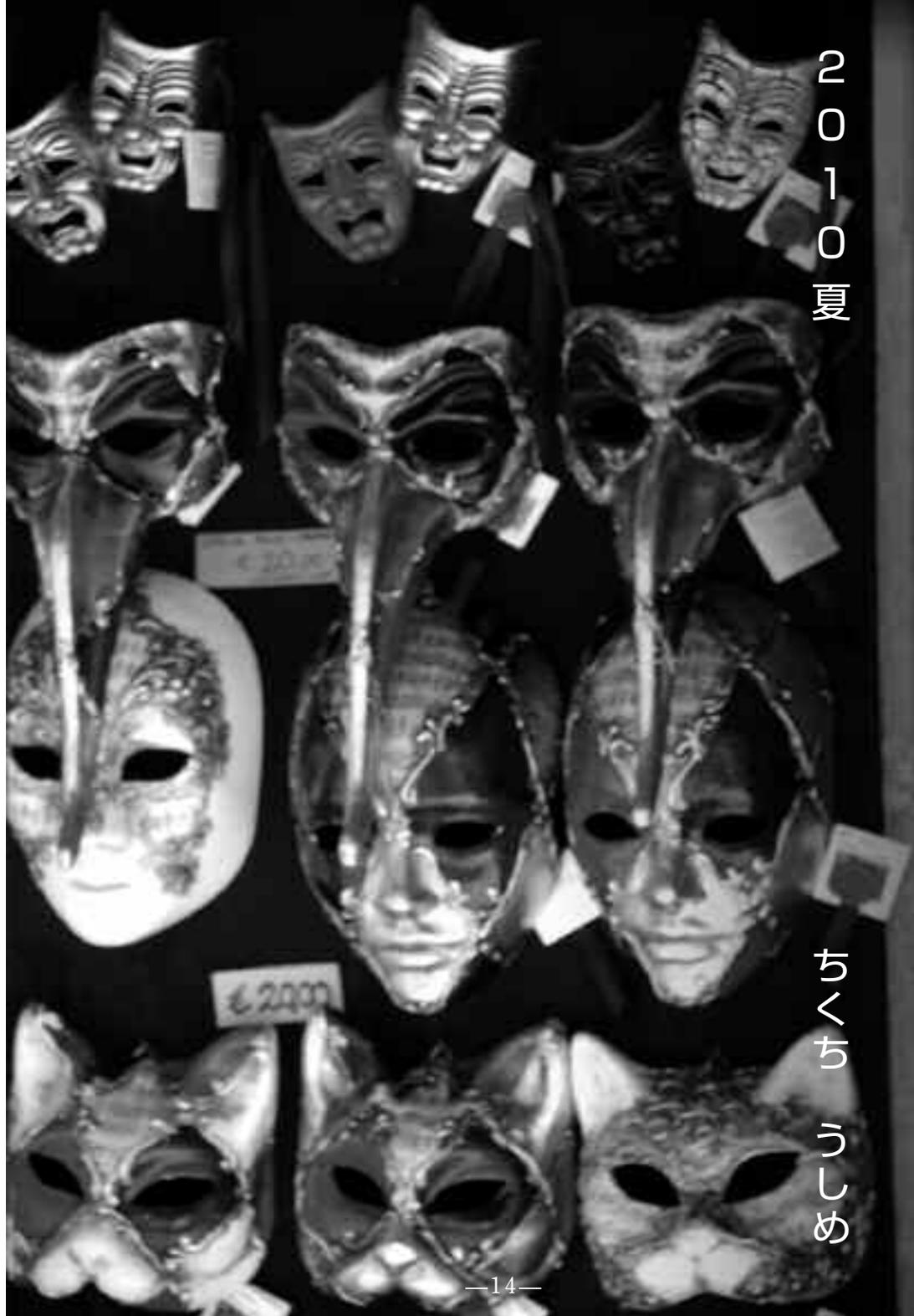
駆引きを楽しんで生きてる

だけど十二単なんてまっぴらごめん

やっぱTシャツにGパンでしょ

そっいえは愛読書は

『赤毛のアン』だったわ



怖い

神様は時に容赦のない罰を下すから怖い
雷様は電光石火で落とすから怖い
お客様は対応を間違えると神様より怖い
医者様はやぶだと怖い
仏様は四度目が怖い
妻が妙に優しいときが一番怖い

大雨洪水注意報のテロップが
TV画面に流れている

警告か 罰か 気まぐれか

あんなに欲しかった休日と言う楽園は
ここからずうっと彼方まで続いている
まだ始まったばかりなのに
この楽園をもてあましている
俺に残された時間はそんなに長くないのに
俺は何もしていないのに怯えている
俺は何もしていないことに怯えている
俺はじっと膝を抱えて怯えている
こんな様じゃ様にならぬと
俺はつまらぬことを考えながら怯えている
顔には出さず怯えている

夏休み

小学生の頃 夏休みは暑かった
みんな真黒に日焼けしていた
宿題は後回しでやりたい事をやった
俺が子供の頃はそれが許されていた

日が暮れるまで遊び
絵日記を描く前にぐっすり寝て
ラジオ体操で目が覚める

今日は魚取りに行こうぜ・・・
いつも本当の顔で生きていられた

会社を辞めた
長い休日のようなものだ
と思っていた
宿題は無いし 何でも出来ると思った

見つからない ここにあるはずだったのに
本当にやりたい事が見つからない

顔には出さず 迷い
考え 想い 悩み
涼しい顔で
暑い暑い夏を過ごして行くうちに
本当の顔を忘れてしまっている

蛙

自分の人生のはずなのに
借り物みたいにぎこちない
なのに顔には出さず笑って生きる

避けたい経験ばかりで
良くない結果が残るだけ
なのに顔には出さず笑って生きる

くよくよしても終わらない
励まし癒しは要りません
自信も誇りも剥ぎ取られ
誰かが投げた匙拾う
強がりばかりの人生は
飲んで潰れて夢を見る

幸せだよと山椒魚に捕まった蛙が言う
でも変ろうか 細胞分裂が続いているうちに
幸せなのかね 天然記念物なんて
変われない 細胞分裂が続いているのに

怒って泣いて泣き疲れ 蛙のように
飲んで泣いて呑み潰れ 蛙のように
溺れた夢に映ってる
あの頃の空に無心に跳びついて
本当の顔になっている

I 幻のささやき

真っ白に燃える真夏の太陽に焼かれ、蟬気楼のごとく存在感のない夏休みの校庭に、ニイニイゼミの音がBGMのように物憂げに流れている。運動場の隅から水道の音が聞こえてくる。

頭から水をかぶっていたのは、練習を終えたラグビー部員たち。いかついスパイクの音を響かせ、汗のにおいをぶぶんぶんさせながら、部室にもどってくる若駒たち。

部室の隣に聳える榎の木の葉陰では、人には見えないものたちが、人には聞こえない声で無邪気な会話をしている。

「ほんとにやる気？ キュービッドちゃん」

「口出ししないでよ。ただの妖精のくせに」

「だって、あいつはキモイよ。あの子には不釣り合いだよ」自分のことを言われているとも知らず、他の部員たちから遅れた一人のラグビー選手が、汗と水をしたたらせながら、二階にある部室への屋外階段を上り始める。その折しも、女子バドミントンの部室から、部員たちが出てきた。日焼けした少年が階段を見上げたちょうどそのとき、白いユニフォームを着た、すらりとしたセミロングの黒髪の少女が階段を下り始める。少年は、階段上に夏の日差しを浴びて白く輝く少女の姿を認めた。

その瞬間、キュービッドの矢は放たれた。

「あーあ、やっちゃった」妖精の声は聞こえなかったが、少年の時間は、一瞬止まった。



I 雨のプリリユード

今日は雨。ラグビーの練習はないので、部室でボールの手入れだ。あのことはみんなに言わないほうがいいだろうか。

夏休みのある日、練習が終わって部室に帰って来たとき、女子バドミントンの部のあの子が、白いユニフォームを着て夏の日ざしを浴びながら階段を降りてくる姿を見かけたときに、何処かで、

「あーあ、やっちゃった」

という声が聞こえたんだ。もちろんあの子じゃないし、ほくの頭の中で聞こえた声みだだった。

あれ以来、あの子を見ると胸がドキドキするし、姿の見えない変な女の子たちの会話が、ときどき聞こえてくる。声の主は、勝ち気な妖精と、僕の味方のキュービッドらしい。だけど、そもそもキュービッドって男の子じゃなかったっけ？ あっ、また聞こえてきた。「どうして天使の一族のキュービッドたる私が、ボーカーなんておっさん臭いゲームをしなきゃならないのよー」

「たまにはいいじゃない。あいつの運命は、カードに決めてもらうのよ。それより、ほら見て。あいつが来たよ。あの子も来たよ。あなたが恋の矢でアイツの心臓を射抜いた落とし前をつける、絶好のチャンスよ」

あれ？ ネコの鳴き声が聞こえる。ネコが雨やどりで屋外階段の下にいるんだ。

げっ、あの子だ！ あっ、ネコを抱き上げた。ネコを見つめるあの子の眼差し、なんて優しくなんだろう。

「あいつ、あの子が気になるくせに、黙って通り過ぎたわよ。私はツープア。あんたは？」

「もっ、しょうがないわねえ。ワンペアよ」

II 風のワルツ

今日は運動会。校庭には秋の光が溢れ、楽しみにしていたフォークダンスが始まった。

オクラホマミキサーののどかな音楽に乗って、あの子も軽やかに踊っている。セミロングの髪が風に揺れて、甘い香りが漂って来そうだ。

バドミントンのユニフォーム姿もいいけど、体操服も似合う。手足が長いから、なんでも似合うんだ。あの子なら、オクラホマミキサーに合わせて、アメリカの開拓時代の女性のドレスを着ても素敵だろうな。

それにしてもフォークダンスって、男女が次々入れ替わって踊るなんて、ちょっとふしだらだ。やっぱりあの子が他の男子と踊っているのは妬ける。でも、あの子は誰ともすまし顔で踊っている。

もうすぐほくと踊る番だ。あの子の手を取ったら、あの子の目を見つめられるかな。ほくと身長が同じくらいだから、視線がまとも合ってしまうだろう。なんだか怖くなってきた。

うん？ あっ、またあの妖精の声が聞こえる。

「ほんとにあいつ、何をうじうじしてるのよ。好きなら好きと、はっきり言えないのー」

「まあ、大目に見てあげてよ。フォークダンスで手を握るぐらいでドキドキしてるなんて、かわいいじゃない。長年キュービッドをやっているけど、キュービッド冥利に尽きるのはこんなときね。ほら、スリーカード」

「お気の毒様！ 私はフォアカードよ」

えっ？ そんな！ フォークダンスの曲が終わってしまった。次があの子と踊る番だったのに。

II 黄昏のやすらぎ

図書室の窓の外に見える銀杏はすっかり色づき、静まりかえった閲覧室の中も、夕焼けと銀杏の葉のおかげで、暖かな黄金の光が満ちている。

銀杏の葉陰から人の耳には聞こえない調べが漂い、例の声がかかる。

「んっ？ このBGMなに？ かび臭くなっ！」

「もちろんペギー葉山の学生時代よ。いいじゃない。どうせ人間には聞こえないんだし」

「あんたいったい年いくつ？」

「私たち天使の一族には、時間はないも同然よ。あなたも妖精だから見かけは若作りだけど、シエークスパアが若いときにちよっかいを出したことがあるでしょ」

熱心に読書をするセミロングのセラー服の少女。ラグビー部員にしては華奢な少年は、筒井康隆のSFの本を返却しに来たけれど、少女に気付いて動揺する。声をかけようかやめようかと迷いに迷う少年。キュービッドはBGMをベーターペンの運命に切り替える。

ついに意を決して少女に近づくと少年。ちょうどその時、下校の時刻を告げるチャイムが鳴り、少女は本を閉じた。さらさらの髪のコぼれかつかた肩越しに、彼女の読んでいた本の表題が見えた。『ニーチェとその思想』！ ラグビー少年の時間は、永遠に凍り付いた。筒井康隆の本を鞆の中に隠すようにして、すげすげ撤退していく。

「キャハハハハ」

妖精の笑い声が、少年にも聞こえたような気がした。

III 天空の女神

白い息を吐きながら、筒井康隆ファンの少年は通学の自転車をごく。運動靴の中つま先は寒さでジンジン痛む。

例のいたずら者たちは、季節風に乗って空を翔けめぐっている。

「ほら見て、あのいくじなしの男の子だよ」

「やめてよ。わたしはあいつを応援しているんだから」

「ふーん、それでBGMはワーグナーのワルキューレの騎行ってわけね」

自転車置き場のそばのすっかり葉を落とした桜の木では、ヒヨドリが胸にしみ通る甲高い声で鳴き交わしていた。その声が映ってやしないかと、少年は水溜まりを見たが、水は凍りついて鈍く光っているだけだった。

その時突然、自転車で乗った哲学少女が、校舎の角を曲がって現れた。少年の目には、自転車で乗った少女は、天馬にまたがり空を翔けめぐる女神のようにまぶしく映った。

少女は自転車を降り、落ち着いて身支度を調べている。次第に少女に近づいていく少年の膝は、寒さと緊張でガクガク震えた。

「さあ、今よー」

キュービッドが励ましの声をかけると、音のないBGMがいつそう高鳴って、ワルキューレたちが乱舞する。

「おはよう」

ぎこちない声で少年は挨拶した。

「あっ、おはよう」

初めてラグビー少年に声をかけられた少女は、驚いたけれども視線をあわせて挨拶を返した。

「おお、やるじゃん」

妖精は思わず声を漏らした。

III 光のパレード

やっぱりSF小説はいい。特に筒井康隆のハチャメチャぶりは、痛快でたまらない。きのう読み終えたのを図書室に返したら、次も筒井のを借りよう。

ああ、中庭に聳える、色づいた銀杏の木が夕日に映えて、図書室の窓ガラスが黄金色に輝いている。感傷的な音楽でも聞こえてきそうなの、しめやかな夕暮れ。

静かな部屋に漂うノートとインクの匂い。外ではまぶしく輝いていた銀杏の金色が、図書室の中を暖かく柔らかく染め上げている。ラグビーの練習が早く終わってよかった。こんな穏やかな時間を見つけたんだから。

あれ？ セラー服の肩にかかっている、さらさらのセミロングの髪。あの子だ！ どうしよう。図書室に入ってきた。声をかけてみようか。でも、何て？ あっ、銀杏の木から妖精の声が聞こえる。

「あいつったら、……まったく意気地なしなんだから。どうして素直になれないのかしらね、あの子とポーカーやってるわけじゃないの？」

「恋は素直だけでうまくいくとは限らないわ。でも、これじゃあ、うちがあかないわね。どーれ、私が背中をひと押ししてみるか。そーれっ！ ストレート」

そっだ。軽く行こう。筒井康隆のSFの乗りで。ああ、でも、暖かい光に包まれた、あの子の坐っている席。後ろ姿がまぶしい。あれ？ 下校時刻のチャイムが鳴ってる。あの子が、読んでいた本を閉じた。書名は？ うへっ！ 『ニーチェとその思想』。お生憎様！ 私はフルハウス。キャハハハハ」

IV 恋のエチュード

冬の自転車通学は厳しい。運動靴の中の足先がジンジン痛む。空を見上げると、季節風に吹かれた雪雲がすごい速さで流れて行く。

でも、なぜだろう。いつもならつらい季節風が、今日はなんだか励ましてくれるような気がする。

風に乗って例の声が聞こえてきた。

「あんたもふがいない奴に肩入れしたもんだね。あいつは、私たちみたいな妖精族から見たらあまりにも短かすぎる人間としての命を、無駄に過ごしてると思えないわ」

「そうね。若さと青春の無駄遣いよ。でも、おっさん臭い退屈なゲームだと思ってたポーカーも、やってみたら結構おもしろいってことがわかったわ。恋でも人生でもポーカーでも、一見無駄と思えることが、後になって意味があったんだとわかることもあるわね。それに、勝ち負けには関係なく、駆け引きがおもしろいっていう側面もあるし」

「ずっと私に負けっぱなしのくせに、負け惜しみなんか言ってるいで、キュービッドらしくあいつを助けてやってよ。ほら、今度はどうなの？ 私はストレートフラッシュよ」

自転車置き場には、自転車を置いて身支度をしている、あの子がいる。ちらっとほくの方を見たような気がする。

ようし、今日こそ声をかけよう。

ただ挨拶するだけなのに、膝がガクガク震える。

あと十メートル。五メートル。今だ！

「おはよう」

ほくの声はぎこちなかった。

「あっ、おはよう」

目と目が合った！

「うふふふ、ロイヤルストレートフラッシュ」

「おお、やるじゃん！」

テーマ作品（作詞・短歌・連作自由詩・物語・エッセイ他）募集

マイ詩集同人の皆さまへ——次号=11月号のテーマ特集のページに発表します

ギリシア神話

同窓会

作品形式の募集内容に合わせて書いて下さい。

複数の募集テーマを書きたい場合は、1作品に両方を取り込むことは避けて、別々の作品に分けて書いて下さい。
作品タイトルには、募集テーマ名をそのまま使わないで、オリジナリティを出しましょう。部分的に取り入れるのは可です。

連作詩／作詞／短歌

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・作詞……20字×30行以内
初めて作詞をする方は本誌P65～66を参照、歌詞の1番2番のフォームを整えて下さい。 ・短歌……2首以上の連作。タイトル不要。 ・詩物語／連作自由詩……
三部作または四部作形式
1編20字×20行以上30行以内、計120行以内。
タイトルは全体と各編それぞれにつけること。 | <ul style="list-style-type: none"> ・作詞……20字×30行以内
初めて作詞をする方は本誌P65～66を参照、歌詞の1番2番のフォームを整えて下さい。 ・短歌……2首以上の連作。タイトル不要。 ・詩物語／連作自由詩……
三部作または四部作形式
1編20字×20行以上30行以内、計120行以内。
タイトルは全体と各編それぞれにつけること。 |
|---|---|

原稿用紙1枚目の右上に、4つの必要事項を明記して下さい。

- [1] 3月号発表用 [2] 同人番号 [3] 本名
[4] テーマ名と作品形式（テーマ〇〇作詞／テーマ〇〇短歌／テーマ〇〇連作自由詩等）

受付期間 8月1日～8月20日（掲載発表は9月26日頃発売の11月号）
送り先 〒332-0015 川口市川口4-3-18

マイ詩集 11月号 [テーマ名] [作品形式] 発表係
[作品形式]には「作詞」「短歌」「連作自由詩」「詩物語」等を入れて下さい。

小説・エッセイ等

次号発表用の詩・作詞・短歌（自由テーマまたは募集テーマ）のいずれかを送稿済みの方を対象とします。小説・エッセイ等の長文テーマ作品は、選考による掲載となります。

- 内容 ・募集中のテーマ【ギリシア神話】または【同窓会】に該当するもの。
作品形式 ・随筆・エッセイ……400字詰原稿用紙4枚～5枚前後。
・感想文・評論文……400字詰原稿用紙5枚～10枚前後。
小説などの文学作品や映画作品等を対象にしたもの。
別紙で対象となる作品のあらすじ400字以内を添付。
・小説・童話等の創作…400字詰原稿用紙10枚～50枚前後。
詩歌（詩・作詞・短歌）と散文の組み合わせも可。
別紙で主な登場人物紹介とあらすじ400字以内を添付。
- 用紙 ・A4判の400字詰原稿用紙 または A4判ワープロ印字用紙。
・ワープロ用紙は、1枚につき20字×20字の印字。
・すべての用紙の右上に、通し番号を明記。
・原稿返却希望者は、返信切手貼付宛名記入済みの封筒を同封して下さい。
- 同人番号・本名・テーマ名・作品形式を、1枚目欄外に明記。

受付期間 8月1日～8月20日（掲載発表は9月26日頃発売の11月号）
送り先 〒332-0015 川口市川口4-3-18

マイ詩集 11月号 [テーマ名] [作品形式] 発表係
[作品形式]には「エッセイ」「感想文」「小説」「童話」等を入れて下さい。

IV 時を越えて

校庭の桜並木は満開を過ぎ、春風に誘われるかのようにつ、花びらがひらひらと散っている。運動場では、柔らかな日射しが、チヨウチヨウたちと楽しげに鬼ごっこをしている。「やっぱり、そうきたのね。まあ、そりゃそうだけどね」桜の梢に陣取った妖精が、キューピッドを冷やかす。「うん、まあ、春のBGMはやっぱりこれでしょ。ビバルディの四季の春」
「まあ、定番だから許してやるか」
筒井康隆フアンのラグビー少年は、仲間が蹴り損ねた不規則に跳ね回るラグビーボールを、校庭の隅の桜並木まで追ってきた。やんちゃなボールが桜の幹に当たって、花びらがいつそう降りしきる。列をなして走って来た白いユニフォームの女子バドミントン部員たちに薄ピンク色の花びらが降りかかる。
哲学少女の姿を認め、日焼けした顔をほころばせて、少年の白い歯がこぼれる。
「やあ、ごめんごめん」
ニーチェの好きなスポーツ少女も、にっこり桜色の微笑みを返す。
「いいわねえ、初々しいわねえ。ところで、BGMはあなたの好みの舟木一夫の高校三年生にしかなくていいの？」
「そうね、永遠の命を持つ私たちから見れば、限られた時間を精一杯に生きる人間の姿が羨ましいときもあるわね」
妖精の皮肉を無視して、キューピッドが感慨に浸っているうちに、BGMは春から夏へと移るついでに……

く



初夏

古賀さくよ

黄金の緑の中を 川が流れ
クローバーの白い灯りがでてんと
土手は緑の宝庫だ

流れている川のみずみずしさよ
しぎや よしきり あしの中で鳴いている
木は てんとんと 黄色い絵の具こぼしたように
若葉をつけて立っている

神様ももし私を愛して下さるならば
緑の大地に添うように 私を作って下さるだろう
緑の大地の上に 口笛を吹きながら横になる
『ます』 シューベルトの口笛を吹いてみる
青色の風が吹く 初夏は心が踊る

暑中お見舞い申し上げます。

家から歩いて十分ほどの荒川添いの土手を
思い浮かべながら、古賀さくらさんの詩を文
字入力しました。すぐ近くのところにこのところ
足が遠のいているのです。

理由？ 今年の初夏は、おおにしやすおさ
んの詩にもあるようなおかしな天気、という
より何だか急いで真夏日をめざしているよう
に、梅雨明け前から気温が高くて蒸し暑い日
が続いていたからでしょう、毎日のように夕
立もあったりして、なかなか散歩に出られな
かったのです。

目で読むと、言葉で絵を描くような、情景
描写の豊かさ。声に出して読んでみると、自
然の懐に深く抱きしめられているような、心
地好さ。鳥の声、そして口笛の曲名まで登場
しているのもうれしいですね。

真っ白な絵日記

おおにしやすお

訳のわからない おかしな天気 to 翻弄され
身体のリズムがすっかり狂ってしまった
そんな中 自分でも気付かないうちに
季節はいつの間にか夏に変わっていた

とりあえず一週間の休みをもらえたとして
何をしようか 予定はほとんど真っ白
毎日が 自宅で空しい巢ごもりの日々か

青空の下 砂浜で好きな彼女と戯れながら
すてきな水着姿にときめく予定もない
時間つぶしに好きな電車に乗りたくても
切符代を満足にひねり出せるかどうが怪しい

ならば仕方がない 今年の夏はもう強がって
「思い出なし」ということにしようか
今年の思い出絵日記は真っ白になるだろうが
こんな夏もあると自分に言い聞かせてやろう

みなさまの町の近くにもちよっと足を伸ば
せば河川敷のあるような広い川とか、もしか
したら川遊びのできるような溪流もあると思
うのですが、海辺とはまた違った水辺の爽や
かさが、詩心を潤してくれるのではないでし
ょうか。

この号がみなさまのお手元にある頃には、
隅田川の花火大会があります。今年はタワー
のおかげでしょう、いつにもまして混雑しそ
うですね。

毎年観る場所は地元の穴場的なエリアです
が、駅の近くのこのあいだ下見に出かけ
てきました。父の実家に近いこともあって子
どもの頃から馴染んでいる町なのですが、最
寄り駅の周辺は工事現場がふえていて、もし
かしたらあそこも……って、気になってしま
って。駅舎も工事中なので最近バスで行く
ことが多くなりましたが、町並みを窓から眺
めるのも楽しいですね。

それでは、次号のみなさまの作品も楽しみに
しています。

五稜郭の君

中山めぐみ



今は知る

調べない 調べないと思いつつ
結局 ごっそりと買い込んでしまった
彼に關する史実本 合計十二冊を通販で
意図したものと違つた本は目も通さずに葬つた
あえて 土方歳三の史実を知りたかつた

小説や漫画の類も悪くない 前なら真つ先に購入した
歴史を土台に理想と思想を詰め込んだ物語の中
会話し 迷い悩む 彼らが呼吸する
ワクワクしながら 今度は自分ならばと
心躍らせ 筆をとつてみたりした
——でも 今はできなくなつた
なぜなら 彼の想いは 彼しか知らない
そう考へてしまつたからだ
小説や漫画もあえて避けたのは それだけの理由

事実を知りたいのなら
史実本を手を取ればよい
会話する彼らや 物語に浸りたいのなら
ドラマや漫画を手によればよい

己の中に 確固たる線さえ引けば
意にそむく何かを目にしても 苛立つことも無い
すべては 他者各々の意味あるものと知る

五稜郭の君

一時の静けさの中で 俳句や和歌を詠んだ人
正直 彼が文学を嗜んでいたことなど
去年の中旬までは知りもしなかつた

——いや 知ろうとしなかつた
漠然とした 書籍やドラマの土方像
ただ それだけの人だつた

俳句や和歌を嗜む詩人的な人柄
それが 興味を深く抱いた さいたる理由
——それ以上に 己が最前線に立つ姿勢も評価した
彼の俳句を評論家や研究者たちは
誰もが口を揃えたように うまくないと書いている
己が心に感じたことを 五七五にのせ綴りゆく
収めるだけでも難しい 感性を要求されるもの
もつともらしく評論を下すまえに

己が一句 詠んでみてから筆をとるが正しい
自分が できぬことで他者を評価するなど
間違つている事と知れ
我は一句も詠めぬから 何もいえない
ただ 彼の句は とても繊細な色を魅せる
のべられるのは 感じる思いのみ

決意の表明

京にあがると決めた 彼は
己が手で 自身の俳句集を綴ったという
並々ならぬ決意と表明
そう感じずには いられぬだろうか

何にもけじめをつけたがるのは
己が心に 決断をさせるため
誰にも それを相談せずは
己が心の 迷いをはじくため

どうでもいいことには優柔不断でも
これぞと 己が覚悟を決めたことには
やらねばならぬと決断したことには
ただ 揺るぎない決心をカタチとするため
ひとつ くぎりの線を引いている

江戸にもどった彼は伏見の戦いを教訓に
西洋式の戦術を明言したという
ばつさりと髭をおとし
フランス式軍服を纏ったのは
その時らしい

並々ならぬ 決意と表明
そう思わずにはいられない

鬼神

誰にも頼ることなく 己の手すら血で染めて
あえて鬼を演じきる その姿勢
誰にも真似できぬ 責任感の強さを知る

確かに彼のしたことは 酷く残忍なことだろう
しかし 彼はつねに肅清の場も
戦場の最前線にも立ち続け
己が責任と 己が手で それを行ってきた

どこぞの お偉いが腕を組んで
事の成り行きを己が手もくださず
眺めているが もつとも醜い姿と思う

あえて 自ら鬼となり
あえて 自ら手をくだす
誰も悪者になりたくない
そんなものでは ないのだろうか

あえて すべてを跳ね除けて
あえて 時代に逆らっていく
誰よりも先見の眼差しをもつ彼が
時代の流れを読み違えようか

己が道を邁進した その姿勢
我に一番 欠けているものと知る

五稜郭

真つ白な綿毛のような 冷たい雪の上を
彼も歩んでいたらしい

氷のように 儂くも凍てつく大地は
彼の心の 風情のようだったろうか

春 桜舞う 緑芽吹く大地をみつめ

彼は何を想っただろう

故郷に咲き誇る 梅の花でも

思い出していたのだろうか

北の大地にも 春は来る

梅の花や 桜の花が舞い踊る

凍てつく大地を溶かす光が

彼の上に降り積もった 白き雪も溶かしていく

どうか 心の氷も溶かしてくれぬだろうか

誰も悪くないのだ

ただ 志がほんの少し違うだけ

誰も 同じ夢を貫いたのだ

ただ それを歴史が評価しているだけ

——そんなもの 結果にしかすぎぬことなのに

ただ 漠然と流されるままの我らより

彼らは 己が思想を信じて行動した

彼らは 己が責任を重んじて賭けにでた

他者を恐れることなく 他者を見下すことなく

自己防衛も 自己愛に浸ることもなく

真剣に 今すべきことを考えていただろう

——我に一番 欠けていることばかりだ

我は 春が好きだ 桜舞う青空がいい

我は 初夏も好きだ 青竹が青い空を夢見る

今も夢を掴もうとしている

彼の如く 勇ましく生きてみたいと願う 今だ

Thirty-one syllables

川岸に咲く花たちの可憐さに
慰められた片思いの日々

吉田奈緒

おもいでは白いブランコれんげ草
ヘッセの好きな花の友だち

小太刀美恵子

短歌作品募集

- 短歌の改行の有無や位置は自由です。連作の場合は2~5首前後まで。
- 用紙 A4判400字詰原稿用紙使用。ワープロ印字用紙も可。
- 受付期間 8月1日~8月20日 (掲載発表は9月26日頃発売の11月号)
- 送り先 〒332-0015 川口市川口4-3-18 マイ詩集 11月号 短歌作品係
・読者の方は、住所・氏名・電話番号を作品の末尾に明記して下さい。
・マイ詩集の同人の方は、住所氏名の替わりに同人番号を明記して下さい。



恋歌

中窪利周

貴方より

約束場所へ早く着き、

少しでもいい

待つ時間が好き、

みずはらあつき

榊エミコ

負けられない

一人では勝てぬとがみ締めた

フリーキックのサッカー革命

ホームラン

味方に援護をもらった後

申し訳なかったと彼は悔やんだ

雨の日の君の練習姿思い

今日もまた祈る「がんばってね」と

君の勇姿 雑誌でにじむ汗を見る

瞳が語る「今度こそは」と

「おはよう」の優しい声に包まれて
新たな出会いも力に変わる

止まらずに歩き続けたその先に

結果はついてくるのだから

多岐ユリ子

三輪えみ

澄み渡る七月の空

見上げつつ

梅を干す母

晴れやかな顔

貝殻を耳に当てるとよみがえる

貴男と唱えたコクローの詩^{うた}

渡辺律夫

年上の女性が良いと写真より釣書を観た晩婚の甥

仲人を無事に務めた披露宴帰りに喉を潤すビール

小林智恵

ドアを背にマナーモードを解除してバスを降りれば喧噪の街
義妹いもうとの絵文字あふれるCメール読み返しつつプレゼント練る
まどろみの夢もうつつな昼下がり枕元には携帯を置く
電話すらくれない彼の手堅さが愛しくもありはがゆくもあり
帰り道「お疲れ様」のEメールうなだれがちな心が弾む

川島理生子

番号を入れ終えた後のワレプッシュ
最後の勇気がなかなか出ない
「もしもし」と先に聞こえる君の声
一瞬の間に息整える
いつもなら何気ないただの挨拶も
声だけの君はどこか別人

むかしあるところに

はこべ

今は昔の おはなしです
とある会社が ありました
うるさい社長も おりました
電話料金 ばかにはならぬと
私用の電話を 禁止して
公衆電話で テレホンカード
そんな会社に ある日のこと
ファクシミリが はいりました

今は昔の ことですから
ファクシミリでは 大切な
書類が届くか 心配で
これから送ると 電話をかけて
送ったあとでも 電話をかける
これでは経費の むだづかい
うるさい社長は 大弱り
ついに社長は キレました

以下は社長の セリフです
「なんでキミらは そんなにも
会社の経費を むだにする
ボーナス渡す その時まで
むだな電話を 何回かけたか
数えておこう 数えるぞ」

今は昔の おはなしです
しぶくてしょっぱい おはなしです

時代

中田ひかり

僕は電話 公衆電話
近所のみよちゃん 使うんだ
お家じゃ 話せない彼氏
なかなか話が 進まない

僕は電話 公衆電話
テレカを使って 話すんだ
酔っぱらいの サラリーマン
間違い電話を しちゃったよ

時は流れ 流れて
携帯電話の 登場さ
今じゃ僕は 使われなくなった
トラックが来て 運ばれる

僕は電話 公衆電話
この街から サヨナラさ
昔の 会話を乗せて
みんな バイバイ



心のスーパースター

— カーペンターズを聴きながら —

聖川 泉

甘く切ないメロディ
私をなくさめてくれる あたたかいことば
やわらかな歌声を
あなたのギターと比べてしまう

心の隅でさよならが ささやくけど
私はあなたを信じているの
電話をくれないのは
冷たい心じゃなくて
私の気持ちを知っているからなのでしょう

悲しい思い出に別れを告げて
明日へ歩き出すわ
いつでも愛をたずさえて
心の中に咲く
あなたという花を守ってゆくの

心の隅でさよならが ささやくけど
私はあなたを愛しているの
メールをくれないのは
上辺の言葉じゃなくて
確かなぬくもりが欲しいからなのでしょう

悲しい思い出に別れを告げて
明日へ歩き出すわ
いつでも愛をたずさえて
心の中に咲く
あなたという花を守ってゆくの

心の中に咲く
あなたという花を —

そばにいるから

中島省吾

ここにはいない時もあるけど
そんな時には携帯が
神具になって
神の声を聞かせるよ

「心から 愛してる」
「君のそばに いつだって 僕がいるから」
「ねえ君 安心して」
「僕という 君だけの 神がいるから」

そんなに不安にならないでくれ
そんなに心は狭くない
神の心の広さは
君をいつも見ているよ

「心から 愛してる」
「君のそばに いつまでも 僕がいるから」
「ねえ君 安心して」
「僕という 君だけの 神がいるから」

なかなか逢えない時もあるけど
どんな時でも忘れなくて
僕のを聞かせるよ
「僕という 君だけの 神がいるから」



青い携帯電話

青須賀 了

夜の準急 止まったら
愛のアルバム 開きだす
半年ぶりの ロータリー
笑って歩いた 急な坂
明かりのついた あの部屋で
今でも眠って いるのかい
電話番号 画面に出ても
ただけどやっぱり どうしても

青い携帯 消しながら
二人の時間に 背を向けた
心でメールを 打ってみる
ごめんねあんなに 意地張って

月が出る日は 送ってく
月が無くて送ってた
三年間の 愛なんて
一度のけんかで ぐだけ散る
明かりのついた あの部屋で
今では誰かと いるのかい
電話番号 画面の中に
ただけどやっぱり どうしても

青い携帯 閉じながら
二人の時間に 苦笑い
心でメールを 送るから
ごめんね本当に 好きだった

おかしな事情

星 紫穂

携帯が鳴る かもしれないし
電源はON いつでもOK
防水だから 水も平気で
いつも一緒 離れられない

依存症って 言われたけどさ
これが当たり前 持っていないのが
おかしいんだよ 今の世の中
携帯がなきゃ 生きていけない

メールが届く かもしれないし
24時間 寂しくないの
アドレス
電話帳は 親友だらけ
音信不通 これも常識

依存症って 意味わかんない
向かい合っても 会話はメール
ひまなら電話 他を探すよ
「バカな女」って？ 誰のことだろう

依存症って 言われたけどさ
これが当たり前 持っていないのが
おかしいんだよ 今の世の中
携帯がなきゃ 生きていけない



つぶやき ささやき

四谷 文

つぶやきを書くとき 別人に化けてる

(ノイズ)

二人きり話すと うつむいて黙るね

(ノイズ)

今どこと読むより 君の声聞きたい

(ノイズ)

つぶやきがなうでも ささやきは消えても

(ノイズ)

ケータイがあるなら ささやいて欲しいよ

つぶやきを読むとき 好きなのを選んで

(ノイズ)

大切な話は 後回しなのかな

(ノイズ)

誰かのを読むより 君の声聞きたい

(ノイズ)

つぶやきが優しく ささやきが敵でも

(ノイズ)

ケータイに向かって ささやいて欲しいよ





作詞(歌の歌詞)作品募集

将来性の高い作品にはこのコーナーで^{コメント}講評します。とりわけ優秀な作品に対しては、プロのミュージシャン・シンガーソングライターなどによる作曲と編曲でボーカル入りのデモCDを制作することがあります(必要に応じて補作詞が入ります)。

デモCDは基本的に音楽出版社・レコード会社等への売り込みに使用し、作詞者にも同じCDを3枚お送りします。

- 内 容……作曲されて歌われることを前提とした歌詞
- 作品規定……A4判400字詰原稿用紙に 横書き
(ワープロ印字用紙も可)
題名・作者名(ペンネーム可)・サビ・空行を含めて、20字×30行以内
第1行に題名、第2行下方に作者名、本文は第3行から書き始めること
- ・読者の方は、本文終了の後に〒住所・氏名・電話番号を記入して下さい。
- ・マイ詩集の同人の方は、用紙右上余白に同人番号を記入すれば連絡先は不要です。
- 受付期間……8月1日～8月20日 (掲載発表は9月26日頃発売の11月号)
- 送 り 先……〒332-0015 埼玉県川口市川口4-3-18
マイ詩集 11月号作詞ワークショップ係

このコーナーの作品と^{コメント}講評は、本誌同人専用スペース「作詞発表係」および「テーマ作品発表係(作詞部門)」を中心にしています。

キヨクツヨク

寺島照悟

この人生はハズレだ 鏡も見たく無い顔
背が低い 声も悪い 肝心な時は弱い
給料は多くないし 頭下げてばかりいる
モニタに食いついてるが 特に楽しくもないな

この人生はハズレだ 張り裂けそうになるけど
`あ` あああああ、叫びたい主張が無い
寂しいベッドが怖い とにかく朝は不吉だ
そんなことより何より 愛すべき人がいない

孤独の意味が身に染みる
今日もいつもの満員電車
両手を挙げて乗っている
息も誰かにかけないように

せめてキヨク せめてキヨク
ほかにににも ないのだから
せめてキヨク せめてキヨク
ぼくができる すべてだから

この人生はハズレだ アタリ引いた人が言う
「愛だ、希望だ、未来だ、諦めるな」って歌う
君はいいな、沢山の 祝福を勝ち取ってさ
こっちは明日が来るのに とうに嫌気がさしてる

誰かの言葉読み流す
たまに座れた満員電車
隣のオヤジ眠ってる
僕もその内そうなるのかな

せめてツヨク せめてツヨク
めざすものが ないのだから
せめてツヨク せめてツヨク
いつかであう ひとのために

せめてキヨク せめてキヨク
ほかにににも ないのだから
せめてツヨク せめてツヨク
いつかであう ひとのために

実名のない音楽会

鳴海杏士

僕がどこの誰だかわからない世界で
君がどこの誰だか気付かない今夜は

魔法をとこなえたつもりで
がむしゃらドロシー全力疾走
偽物の夢を集めて
夜明けが来るまでポルカで踊ろう

ロバヤニワトリその他のデタラメな四重奏
枯れ木に咲いた花ならそれだってアリでしょ
毛の無い猿であふれた猿知恵の動物ショー
誰が誰でもいいままこの星はまわるよ

僕がどこの誰でも意味が無い世界で
君がどこの誰でもかまわない今宵は

ココロの体温あがって
笑顔でドロシー最強状態
偽物の希望つかんで

お迎え来るまでポルカのリズムだ

ロバヤニワトリその他のデタラメな四重奏
ガレキに咲いた花でもキレイって言えたら
毛の無い猿が織り成す悪知恵の動物ショー
みんな救われぬままこの星で暮らそう

さあ、今年も夏がやってきましたが、今年の夏はどんな夏になるのでしょうか。今回も皆さんの力作ぞろいで、脳みそのCPUがオーバーしそうでした。外付け脳みそがあれば欲しいくらいです。(笑)

テーマの「電話」^{テレフォン}では、ユニークな作品が多くて楽しませていただきました。『つぶやき ささやき』四谷 文さんの作品では、ついに「Twitter系」も登場。携帯電話やメールなどが当たり前に普及してくると、人と人とのコミュニケーションのフィードバックも、変わってきていますね。

手紙なら返信を受け取るまで一週間くらいはかかりますが、携帯メールだと瞬時に返信できて、それゆえに、半日待っても一日待っても返信がないということで、相手に対する不信感が出たり……。ネットにおいては、いろいろなサイトやBLOGへ、ハンドルネームと称する匿名性を利用して心ない誹謗中傷等の、卑劣な行為をなんの罪の意識も無く行う人も増えてきました。私ごとで恐縮ですが、ネット上での友人(女性)が、ネットでの攻撃とリアルでのストーカ的な行為により、あまりの心痛から自らの命を断つという事件もありました。言葉が持つ力というものを痛感せざるを得ない悲しい事件でした。

使い方によっては武器にもなり、時には女神様に包まれるような癒しにもなる。そんな時代だからこそ、言葉を大切に、そして、皆さんで楽しくイマジネーションを膨らませていきたいものですね。皆さんで元気になれたり癒されたりしながら、楽しく生きていきたいと考えます。

すみません！私は神様でした

中島省吾

荒れた社会の風景 今日変わらず
人は人を貶めて 生きている
欲と情けにまみれた 男と女が
しょーもない事 しでかしている

それでも何処かで誰かが 今日生まれる
すばらしい偉人も 成長する
政治でつぶされても
愛で再生させているから

隠してすみません
私は神様でした
しょーもないことしてる人間の
すべてを見通しています

しょーもないこと しでかしたなら
私がシバいてあげます
あの世へ 逝きなさい
あの世へ 来たときは ぜひよろしく

困った人の悲鳴が 今日聞こえる
人は人をあざむいて 生きている
嘘と慈愛でうごめく 男も女も
隠し事ばかり 積み重ねてる

それでも何処かで誰かが 今日生まれる
新たなる天才も 成長する
挫折でつぶされても
愛で再生させているから

隠してすみません
私は神様でした
隠し事してる人間の
すべてを見通しています

隠してる悪事 隠された善行
私が裁いてあげます
あの世へ 逝きなさい
あの世へ 来たときは ぜひよろしく

ピクニック

— Sunshine magic —

木下好美

今日はピクニックに行こう
空は青空 天気はサイコー
おそろいのスニーカーで

秘密の丘の上
クローバー咲き乱れる
手をつなぎ散歩しよう
風の天使が頬にくちづける
ポニーテールが揺れたね

Sunshine magic
恋しい人よ 腕の中に
Sunshine magic
あふれる想い きらめいてゆく

今日はピクニックに行こう
空は青空 気分はサイコー
おそろいのスニーカーで

秘密の丘の上
二人きりランチタイム
サンドイッチを食べよう
そして こぼれる陽だまり ひざまくら
恋しい人の寝顔と

Sunshine magic
忘れられない姿見せて
Sunshine magic
いつもとなりで 笑っていてね

呑むぜ！ ぶちこわし酒

父親回想編

醉生夢三死

人妻

石井美和

兄 今日はおやじの 一周忌
 まずは一杯 やってくれ

妹 私そんなに 上戸とは
 思わないけど いただくわ

義弟 僕も強くは ないけれど
 (妹の夫) 今日特別 つきあうよ

兄妹義弟 さあさ一杯 ぶちこわし酒

兄 俺は随分 長いこと
 酒の肴に されたよな

妹 愚痴も涙も 兄さんを
 呼べば収まる 父だった

義弟 そして最後は えびす顔
 いつも愉快地 お開きで

兄妹義弟 一家団欒 ぶちこわし酒

兄 それにつけても このボトル
 形見代わりにゃ 派手すぎる

妹 しょうがないでしょ 父さんが
 肌身はなさず 使ってた

義弟 そうさそれこそ 命より
 大事大事な 宝物

兄妹義弟 サイケラベルの ぶちこわし酒

1. 女 待っていたのよ いつもの 内緒のメール
 待ち合わせには いつもの あのお部屋ね
 貴男のハートを 素肌にまとい
 私は舞い姫 秘め事を 舞う

男女 昼下がりの スコール 愛の嵐
 声も 心も 濡れて
 昼下がりの スコール 愛の嵐
 このまま いつまでも どこまでも

2. 男 偶然会っても いつもの ポーカーフェイス
 素颜になるのは 週一度 この部屋だけ
 貴女の熱い 吐息の中で
 僕は夢見る ミルク色の 夢

男女 昼下がりの スコール 愛の嵐
 声も 心も 濡れて
 昼下がりの スコール 愛の嵐
 このまま いつまでも どこまでも

■人妻 (テーマ作品・ポーカーフェイス) 石井美和さん (P 53)
 とても妖しい大人のポーカーフェイスですね。
 サビの詞が一緒なので、せつかくですから男女が一行ずつのデュエットのほう
 霧囲気が出やすいかな?と思いました。
 「昼下がりのスコール」って、なんだかインパクトがあるフレーズですね。

■ピクニック — Sunshine magic — 木下好美さん (P 51)
 とてもシンプルで、妙なヒネリが無いところがかえってイメージが広がりますね。

■実名のない音楽会 鳴海杏士さん (P 48)
 タイトルでウケました。(笑)
 問題も多い「〇ちゃんねる」などのネットでの交流。ハンドルネームという匿名性をいことに
 言葉を投げ捨てるのがまかり通る風潮に対するテーゼと、勝手に解釈させてもらいました。
 「ボルカを踊ろう」という、破壊的なファンキーさがとても面白いです。

■キョクツヨク 寺島照悟さん (P 48)
 このタイトルには、なにかを期待させるインパクトがありますね。
 サビ部分のリズムも、やりきれない思いが爆発する感じでインパクトがあります。

- 最優秀作品賞 寺島照悟さん (P 48)
- 優秀作品賞 鳴海杏士さん (P 48)
- 「キョクツヨク」 木下好美さん (P 51)
- 「実名のない音楽会」 石井美和さん (P 53)
- 「ピクニック」 中田ひかりさん (P 41)
- テーマ部門優秀賞 「人妻」(ポーカーフェイス) 石井美和さん (P 53)
- ユニーク賞 「時代」(テレフォン) 中田ひかりさん (P 41)
- 「つぶやき ささやき」 四谷文さん (P 47)
- 「すみません！私は神様でした」 中島省吾さん (P 51)
- 「むかしあるところに」 はこべさん (P 41)
- 「呑むぜ！ぶちこわし酒 父親回想編」 醉生夢三死さん (P 53)
- 努力賞 寺島照悟さん (P 48)

女優の切なさ

中田ひかり

私は舞台女優
 今度の役は悪女
 男達を手玉に取って
 ポーカーフェイスで切り捨てる

足にしがみつくと男に蹴りを入れて
 煙草をふかすの

「君とはもう会わない」
 昨夜のアイツの捨て台詞
 頭に焼き付いてるわ

私は舞台女優
 涙は見せないの
 男達をあやつる悪女
 ポーカーフェイスで切り捨てる

泣きつく男にワインをかけて
 煙草をふかすの

「君とはもう会わない」
 昨夜のアイツの捨て台詞
 アイツの背中 覚えてるわ

私は舞台女優
 ファンが待ってるの
 どんな時でも ポーカーフェイス

本当は泣きたい気持ちでいっぱいよ……

ポーカーフェイスのまま

蒼月 夢

クールな顔して 優しいひと言
 「今日もゆっくり 眠れるといいね」

おいしい料理と おいしいお酒
 店を出る時の そのひと言
 言ってくれるのは 君一人だけ
 そのひと言を 聞くだけで
 肩の力が 抜けてくる

ほろりと酔って いるけれど
 そのひと言が あるだけで
 夢の世界に 入れそうなの
 そのひと言を 聞けない夜は
 薬を飲んでも 眠れない

ポーカーフェイスで クールな君に
 初めて伝えた 「ありがとう」

おいしい料理と おいしいお酒
 店を出る時に そのひと言
 伝えたら君も 嬉しそうだった
 私もとても 嬉しくなって
 足取り軽く 帰り道

何気に優しい ポーカーフェイス
 いつでも君は ポーカーフェイス
 イケナイ イケナイ 好きになりそう
 朝まで君と 眠りたいけど
 私も今は ポーカーフェイス

ポーカーフェイスのまま
 ポーカーフェイスのまま……

■時代
 とても面白い発想の作品ですね!!
 (テーマ作品・テレフォン)
 今では、駅ですら公衆電話を探すのにひと苦労します。
 赤、ピンク、グレイ、グリーン等、いろいろありましたね。
 受話器の独特な重さとコードの太さが、懐かしくなりました。

■つぶやき ささやき (テーマ作品・テレフォン)
 「やってみたかったです、ポエトリー・リーディングに近い、ささやくような歌を。
 作詞家の領分を逸脱していても。」
 四谷 文さん (P 47)

■すみません！私は神様でした
 タイトルからして期待させるものがありました、とても面白いコンセプトですね。
 アイロニックでファンキーで、なおかつしつかりとしたメッセージが出ている作品だと思います。
 携帯電話やメールが普及して、時代の移り変わりを感ぜさせられますが、
 ついにここでも「Writer 系が登場しましたね!!」(笑)
 まさに現代社会を反映している作品ですね。
 なにか新しいスタイルの物が産まれそうな予感を与えてくれる作品です。

■むかしあるところに (テーマ作品・テレフォン)
 さて、どのように曲をつけるか？ということはどうも置いておいても、面白い作品ですね。
 中島省吾さん (P 51)

■ある！ある！ある！と、たくさんさんの相槌が聞こえてきそうです。
 「これから送ります」「ハイ届きました」なんて、よくやっていますね。
 それがいつのまにかメールでファイル添付。時代の変化を象徴した作品ですね。
 はぐへさん (P 41)

■呑むぜ！ぶちこわし酒 父親回想編
 「主人公は他界してシリーズ打ち止めとなりましたが、遺族の思いも描いてみようと考え、
 性懲りもなくまた作ってみました。遺族が多いので、あるいはまたシリーズ化するかもしれません。
 気の向くままに作りますので、その節はまたよろしく願います。
 今回は、デュエットをトリオに変えてみましたが、いかがでしょうか。」
 醉生夢三死さん (P 53)

走りゆく先は 闇の中でも
己おのが行く道は 己おのれが決める

我が願う 儂き夢
我は残す 命を懸けて

咲き乱れ 散り際に
真実は 試される
己おのが使命を 重んじよ

限りなき 宿命は
さだめと 呼ぶにあらず
潔き 徒花

慰めはいらぬ 求めもしない
願わくは君の 御霊に祈る

君が願う 久遠の夢
君が残し 絶命うたの詩

咲き誇り 散り際に
真実を 差しのべる
己おのが 覚悟を みせつけよ

限りなき 宿命よ
さだめと 我は呼ばぬ
潔き 徒花

Poker Face と呼ばないで
無表情なのは恐怖を感じているから
いつも崖っぷち ギリギリの勝負だから
表情を作ってる余裕なんてないの

Ice Doll と呼ばないで
淡々と見えてても実際のところ
やってる方は寿命を削る思い
冷静を努めないと精神がもたないわ

Cool Beauty と呼ばないで
気取っているつもりはないの
廻りがそうやって決めつけて見てるだけ
一人きりの時にだけ表情を緩めるの

自分でも分かっているわ損な生き方だって
Royal Straight Flush なんて狙えない
せいぜい Full House がいいところね

■女優の切なさ (テーマ作品・ポーカージェイス) 中田ひかりさん (P 55)
ポーカージェイスと女優を合わせたところが、ドラマチックな作品となっていますね。
欲を言えばタイトルを「女優」だけにしたほうが、インパクトがあるかなと思いました。

■おかしな事情 (テーマ作品・テレフォン) 星 紫穂さん (P 45)
かくいう私も、ほぼ携帯依存症予備軍ですので、読ませていただいたときには
「イタタタタ……」という感じでした。(笑)
「これが当たり前……」と居直っているところが、けっこう面白いですね。

■青い携帯電話 (テーマ作品・テレフォン) 青須賀 了さん (P 45)
とても明快なテーマで勢いを感じる作品ですね。
「青い携帯電話」というのが、なんだかとてもインパクトがあつて、心に引かって面白いです。

■そばにいるから (テーマ作品・テレフォン) 中島省吾さん (P 43)
通信機器としての電話が、携帯電話となつてから、
とてもプライベートな、またはインナーなコミュニケーションのツールとなつている、
現代の通信事情がダイレクトに反映された作品ですね。

■心のスーパーバスター——カーペンターズを聴きながら—— (テーマ作品・テレフォン) 聖川 泉さん (P 43)
メッセージありがとうございます。
「作詞で、言葉を自在に操ることのできない菌がゆさは、いつもあるのですが、
メロディに乗せて歌われることで、言葉にならなかつた思いも表現されて、良い曲になるのですね。
心地よい楽曲のおかげで、頭痛が治つたりすることもあります。音楽って素敵ですね。」
まったくその通りだと考えています。
詞、曲、サウンド、歌等の絶妙なバランスが力を生み出すのです。
「電話をくれないのは……」のあたりは切なさがかみ上げますね。

とのメッセージをいただきました。
トリオというのも面白い発想だと思います。
ただし、ここで、「ぶちこわし酒」シリーズを知っている人はイメージできるかと思うのですが、
初めて見た(聞いた)人が、一家団樂で「ぶちこわし酒」というのを理解するのは難しいかもしれませんね。

さよならはいつも

聖川 泉

さよならはいつものシグナル変わる前に
ふとあなたの言葉が震えた
若すぎた日々が
夕日の向こう側に流されてゆく
追いかけても明日は
ひとりで朝を迎えるのね

あなたのことは忘れない
今は涙でもいつかきっと
綺麗な思い出になるから
あの頃以上幸せに なれそうにないけど

さよならはいつものシグナル渡る前に
今私の心が震えた
夢見てた明日が
昨日の風の中に飛び去ってゆく
振り向いても朝は
ひとりでドアを出て行くのね

愛したことを忘れない
今日は別れてもいつかきっと
生まれ変わって逢えるから
あの頃みたく幸せになれるかもしれない

若すぎた日々が流れ去って思う
本当に愛してた
あなたがいた日々美しく輝いてる
心から愛してた
あなたといた日々いつまでも輝いる
あなたに出逢う日をいつまでも待っています

アイツと私

木立かおる

アイツは 自分勝手
私を夢中に させておいて
冷たく 置き去りにする
だから 私の方から さようなら
でもね ほんとうは
女ひとりば 淋しすぎます

アイツは 女好きで
淋しがりやで 甘えん坊
どうして つれなくするの
私 いけない所は なおすから
どうか お願いよ
別れの言葉は 聞きたくないの

アイツと私 喧嘩しても
アイツと私 許し合いたい
今日から二人 やり直しましょう

■「さよならはいつも」
テーマが明快でとてもいいのですが、できればもう少し言葉を整理して、「あなた」という人物像やストーリーが見えてほしいかなと思いました。

■アイツと私
とてもシンプルかつストレートでテーマも明快な作品ですね。欲を言えば、サビ部分でも少し強い何か欲しいかなと思いました。

■紙は二枚目
メールやネットが氾濫した現代に、あえて手紙というコンセプトが想いの強さを醸し出している作品ですね。

■ふたつの心
ひとつひとつのフレーズは、良い感じな部分も多いのですが、全体として見た場合、すぐに「これがサビ」と解るくらいのメリハリが欲しいかなと思いました。

雪した桜さん (P 61)

北野麟朋さん (P 61)

木立かおるさん (P 59)

聖川 泉さん (P 59)

■徒花乱舞
「最近はずっかりと新撰組の土方歳三氏に肩入れをしてしまい、書くものすべてが土方歳三氏関係です。(中略)
《我》は土方氏、《君》は近藤勇になるものです。土方氏は、近藤氏を師のように仰いでいたのです。」
とのこと。このような発想から作品を書くというのも、とても面白いことだと思えます。
文語調に近い固いタッチの言葉遣いが特有のリズムを出していて、日本語の美しさも引き出している作品ですね。

中山めぐみさん (P 57)

北斗恵惟さん (P 57)

■Label Me Not
お久しぶりの投稿ですね。ドラマチックな作品です。とてもストレートな勢いが感じられる作品ですね。
「○○○と呼ばないで」で始まるところは、とてもいいリズムが出ていると思います。

■ポーカーフェイスのまま
トータル的に、言葉の整理が必要などころもあるかと思いますが、「何気に優しいポーカーフェイス……」の部分は、とてもリズム感があって良い感じですね。
蒼月 夢さん (P 55)

1. 何もできない恋に
 いら立ちを覚える日々
 やがて夏は過ぎていき
 秋をむかえた
- 淋しさにひたり
 手紙を書いた
 不思議とうまく書けた
 熱い恋を忘れられた
- 二人の恋は始まった
 秋がもたらした果実さ
 悲しいくらい好きな
 嬉しいくらいの恋
2. 探しつづけた恋は
 大切に思うあまり
 君をほめることばかり
 とんだ演技さ
- 大人びたセリフ
 紙には書けた
 照れてはつまる言葉
 許す君に感謝した
- 二人の恋はどこまでも
 紙がもたらした文明
 悲しいくらい好きな
 嬉しいくらいの恋

置いてあった あなたの心
 私の両手で そっとすくいあげ
 やさしく やさしく あたためて
 口づけをした 朝の窓辺

開かれた 南十字の光が
 明るく 私の心を 照らしはじめる
 ふたつの心 ひとつになって
 きらめくあなたの 頬つたう涙

あの日のあなたの 落とし物
 私の人生の すべてをかけて
 ときめく 胸の高まり
 青い青い空へと 響かせた

幾重にも 祈り重なる
 光と影の 心のプリズム
 涙をふいて 力をくれた
 ブルースターの青い花

今日も 朝日にほほえみ
 静かな時が 流れゆく
 赤く あかく ふたつの心
 重なり合って 光を放つ

■「I Love You, 僕を信じて」
 とてもストレートなメッセージを持った作品ですね。
 欲を言えば、長い言葉を使ったセクションと短いセリフのようなセクションを使い分けて、
 メリハリを出すと、さらにスピード感がアップしてくるのではと思います。
 それでは、次回も皆さんの力作を楽ししみにお待ちしています。

■SWEET END
 自由詩として何度も読み返すと、だんだん深みを感じさせられる作品なのですが、
 歌となることを想定すると、もう少しシンプルで、サビとなる部分のメリハリが欲しいと思いました。
 今回が初投稿とのことですが、どうぞ今後ともよろしくお願いたします。

■カタオモイ Optimist
 前出作品『キョクツヨク』(P48) 同様に、強いメッセージを感じさせる作品ですが、
 Optimist, Onlooker, Opportunist の使い方が面白いところなのですが、
 曲になった場合、どのように効果で出て来るか、正直なところ、私も未知です。
 しかし、それもまた楽しいところでもありますね。

■寺島照悟さん (P 63)
 芽吹さん

■中島省吾さん (P 64)
 泉川正樹さん (P 64)

■女の未練恋
 歌謡曲・演歌系の作品ですね。
 ラストのしめくりはとても良いと思うのですが、
 もう少し言葉の整理をしたほうが、メロディーに乗せたときに広がりが出るのではと思いました。

■LOST
 「元カノ」というのは、現代ならではの言葉で面白いですね。
 私だけを見てもらう事ができないなら、もうやめよう！ という気持ちを、
 もっと強烈に打ち出したほうが、曲として聴いた場合に生きて来るかな？ と思いました。

■世古よしひろさん (P 62)

池田計義さん (P 62)

手が握りたい

芽 吹

愛する人と並んで
手が握りたい
腕につかまりたい
寄り添いたい
微笑みたい

そっと顔を上げたとき
あなたの笑顔が
優しかった

大切に
大切に
抱きしめて

あなたの暖かい腕と胸の中
私は安心する
ひだまりの中に咲いた花のように

ずっとずっとこの中で
眠ってしまいたい
だから ずっと私を離さないで

あなたと一緒に空を
眺めていたら
思い描く夢
浮かんでは
消えていった

あなたの体温が
少しずつ伝わって
あったかいよ

いつだって
いつだって
会いたいよ

あなたの高い背の影にすっぽり入る
私は一息つく
新緑の緑の中にいるみたい

ずっとずっとこの中で
眠ってしまいたい
だから ずっと私と離れないで

ぎゅっとにぎった あなたの手が いとしい

カタオモイ Optimist

寺島照悟

嫌な予感しかしない 今度の恋も駄目そう
でも僕はエキスパート 落ち込むのは三日間

好きな人のいる君に その言葉は逆効果
そう僕はスペシャリスト 愛してるとは言わない

笑ってるよ 君の前では
測ってるよ 上手い距離感

カタオモイ Optimist
欲しいものは欲しいけれど
それも移ろっていくから
何時の間にか忘れてるよ
`サヨナラ、も必要がない

カレは僕の親友で 打ち明け話もするよ
だけどこれはデリケート 君に言える事じゃない

わかってるよ その気持ちなら
似てきてるよ 僕らの立場

カタオモイ Onlooker
欲しいものをあげたいけど
どうにかできるのは自分
あまり頑張りすぎるなよ
チカラ抜いたくらいで良い

カタオモイ Opportunist
欲しいものは欲しいけれど
その場しのぎで日和見る
アキラメはまだ早いかも
次の次くらいに僕を…

La…

嫌な予感しかしない 今度の恋は長そう
でも僕は Optimist 見ているのは三年後

女の未練恋

池田計義

1. あなたが私の涙に 差し出すハンカチ
あの日の温もり残り香 いまでは思い出
一人暮らしの淋しい部屋 暖めてくれる
だけど
あなたを想うと涙
むかしに戻って逢いたい
女の未練恋

2. あなたと一緒に重ねた お酒のグラス
飲み明かした後そのまま 二人で眠った
一人暮らしが長くなる程 懐かしくなる
だけど
一人で飲んでも涙
グラスを濡らしてばかり
女の未練恋

3. あなたが私を待ってた 小さなこの部屋
今では出かける前には 灯りをつけるの
一人暮らしの真っ暗な部屋 帰りたくない
だけど
私のおの部屋 窓の
灯りも泣いてるみたい
女の未練恋

LOST

世古よしひろ

君はしつこく 元カノのこと口にする
毎日毎日 うるさいくらい

昔の恋に いつまでも 嫉妬したくない
言い聞かせている だけど だけれど

だから 君のハートに 火を放って
記憶を全部 灰にしたい あたし以外

※ 好きなのはわかるよ でも君不安定
思い出に揺れて あたしをキズつける
未練? 後悔? くらべて何になるの!?
そんな君を 見て見ぬフリして
付き合うなんて もう出来ないわ
「もうやめようよ」 LOST LOVE

君の瞳に あたし以外は映さない
見てほしいのは 心の中身

すべてを奪い 虜にするはずだったのに
元カノには君 振り向いていた

だから こんな悲劇の ヒロインを
ひとり演じて 酔いしれてる ああ悲しい

※ くりかえし

SONGWRITING BASIC 1



FOR BEGINNERS

はじめて作詞をする？

右下のフレーズと比べてみてくれ

A 3字 4字
A 4字 3字 4字
A 7字(3字+4字)
A 4字 4字

A アイの言葉は くれさいから
A 言いたいとき 言えない

A キミは近視で 僕のままどし
A 読み取ることは できない

有海さんの作詞ワークショップもすっかり読めよ！

はこ...

● 作詞には、三つのお約束がある。メロディーやリズムに乗りやすいように、ね。
一、字脚を揃える。二、1番と2番のフォームを整える。三、サビでメロディラインする。

● 作詞って、一種の定型詩なんだよね。童謡や演歌はたいして七五調だから、わかりやすいと思う。ポップスやロック系の歌詞は、ちよつと見 自由詩に近いけど、A×B×C×D×Eとかの、幾つかのブロックから成り立ってる。どのブロックも、単語の字数の組み合わせが揃ってるんだ。1番のA×B×C、2行目3字3字4字3字、2行目4字4字3字なり2番のA×B×C、1行目3字3字4字3字、2行目4字4字3字。これが、字脚(字足)を揃えるっていうこと。

● 歌っていうのは、基本的に1番と2番がある(3番以降もよくある)。歌いやすく覚えやすいように、1番と2番は、同じメロディーで歌う。1番と2番は、音符の数も小節の数も同じ。だから、1番のA×B×C×D、2番のA×B×C×D、は、字数も行数も同じ組み合わせにする。これが、フォームを整えるっていうこと。1番と2番で同じフォームを使うんだ。A・B・C【A・B・C】(C×D)【C×D】(A・B・C)【A・B・C】とかの色々なフォームがあるよ。

● いちはん訴えたいことは、繰り返してアピールするのが、歌の歌詞なんだ。だから、サビは必須事項。1番と2番で共通のフレーズを使うようにしようね。

曲に乗れるならちよつとくらしいの字余りは許されるけど基本を覚えてからにしてくれよ...

私 初心者なんですっすみませんっす

自由詩と、どこがちがうんですか？

アイシテルなんて、これくさいからなかなか言えないんだけど、キミは近視だから、僕のままどしを讀めないんだよね

SWEET END

I Love You, 僕を信じて

泉川正樹

中島省吾

心まで失うほど 君を想ってた
短い永遠は 君の「ごめんなさい」で終わった

空白の壁を埋める事もなく
愛は眠りにつくだろう
だけど隠れた感情が
滲み出て涙へと

跡形もなく忘れさせて
記憶の隅からも消し去って

傷口に効く薬なんて 要らなかった
早く忘れた方が 気持ちが楽になるだろうから

余白の日々を埋める事もなく
夢は死んでゆくだろう
だけど隠れた感情が
滲み出て涙へと

跡形もなく忘れさせて
記憶の隅からも消し去って

血文字で書いた 残された手紙は
灰になるまで 思い出といっしょに焼き尽くされた

跡形もなく忘れさせて
記憶の隅からも消し去って

浮かび上がる思いを 心の中で
消滅させた 残れば苦しいから

僕は人に誤解されまくってるけど
I love you, 僕を信じて！
きっと君にも いつか解るよ
僕が君の唯一の 守護神だと
君のためになら 命を懸けられる
たとえ僕に 何があっても
君だけは守り抜く
最強の守り神に になってあげる

もしも僕と結婚したら
君は絶対幸せになるよ
人は誰でも夢を持てる
だからその夢と一緒に
食べてくれる人が
必要なんだ
雨の日でも嵐が来ても
君の夢をパワーアップ！

君は愛にやられまくってるけど
I love you, 僕を信じて！
きっと君にも すぐに解るよ
僕が君の最高の 守護神だと
君のためになら 命を捨てられる
たとえ僕が 死んだ後でも
君だけは守り抜く
永遠の守り神に になっているよ

もしも僕と結婚したら
君は絶対不幸にはならない
人はどこかで悲しみと出会う
だから悲しみを一緒に
食べてくれる人が
必要なんだ
だけど僕は防波堤だよ
君の悲劇シャットアウト！

I love you, 僕を信じて！
I love you, 僕を信じて！

自由詩を書ける人なら
それを活かすコツがある！



まず短めの自由詩(8行〜10行)を書こう。
これを歌詞の1番とする。フォーム
A×O、B×O…の構造を意識して
A B C…の各ブロックは、
1行か2行(各ブロック同じ行数)で
内容が完結するようにまとめる。
A B C…のメロディは、長くても短くても
基本的に8小節単位で構成されている。
1行の長さ(差)がありすぎると、字余りや
字足らずで歌いにくくなるから注意して。

次に、1番の言葉と字数がぴったり
合う言葉をつなげて、2番を作る。
例えば、1番の出だしが
真夜中の 高速
フルスピードで 駆け抜けてく
なら、2番の出だしは
明け方の 海岸
ヒヨドリ達が 北に向かう

平仮名で数えるときったり合うよね。
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

同じ字数で区切り目が来るように。
1番2番は最後まで字数を合わせる。
これが「字脚をそろえる」こと。
場合によっては、1番の歌詞を修正。
サビのフレーズなど、ポイントになる所は
1番で形容詞+名詞なり
2番も形容詞+名詞で、品詞も合わせてみる。
ノリがいい歌じやすい詞になるよ。



SONGWRITING BASIC 2

作詞の場合もね、美味しいところは出し惜しみしちゃうんだ。
この歌いぞろいって聞き手のハートをキャッチするのは、時間的に早いモン勝ち。
伝えたいメッセージもストーリーも、歌詞の1番だけで一応完結させておこう。
TVの歌番組でも、時間の都合で1番しか歌わなかったり、3番まである場合
だと2番とぼしてすく3番にいくことが多い。
ラジオのDJだって、曲の2番くらいまでを流した後、それを降をBGMに
トークを入れる。3番でまた曲だけ流す…ってパターンも多いからね。
1番より2番のほうが美味しい、みたいな作り方はしないのさ。

1番2番…と進みながらストーリーが変化する歌詞もありだけど、
詞にも曲にも高度なテクニックが必要なんだ。
ふつう、1番2番…は同じメロディを繰り返す。
明るく楽しいメロディには楽しそうな詞が合うわけで、
哀しい感じの詞では合わない。

基本は、歌詞の1番だけでストーリー完結。

2番3番は、1番の別バージョンのつもりで作ってみよう。

わかりやすいのは、1番に出てくる情景や小道具を多少入れ換えて
1番と同じメッセージを(サビで)繰り返す、っていう構成だな。

e x ♪1 授業中の教室 教科書見ている

♪2 昼休みの校庭 お弁当食べてる

同じ情景や小道具や人物でも、角度を変えて描写するとか…

e x ♪1 君のこのひらの温もり

♪2 君のくちつけの優しさ

同じ状況で時間をちょっとだけ
進めて、なんてもアリかな。

e x

♪1 公園で待ち合せて出会う

♪2 公園を手をつないで歩く

プロの人の歌詞や、
作詞ワークショップに載っている
優秀作品も研究してみようね。



『作詞ワークショップ実践編』として

マイ詩集の同人のみなさんの

発表作品の中から選ばれた作詞は、

プロのミュージシャンによる

補作詞・作曲・編曲・レコーディングを経て

デモCDになっています。

優秀作品のCDは定期的に制作しています。

オリジナルの作詞が歌に仕上がっていく過程や

作詞のポイントなども、

曲の担当者、詞の担当者が

誌上で紹介していきます。

MY詩集作詞ワークショップCD vol.4

【BOY～欲張りに夢を抱えて走る君の歌】 【生きてる証】

作詞: 北森耕太郎 / 松下あけみ

作曲/編曲: 有海治雄 歌: 有海治雄

通信販売のお申し込み

頒価: 送料共 1000円 (2曲入り)

現金書留・切手代用(100円切手X10)・銀行振込(三井住友銀行高円寺支店 普通1279529)

〒332-0015 川口市川口4-3-18 マイ詩集 作詞ワークショップCD通販係

editorsroom5@my-shishu.com メール題名…作詞ワークショップCD通販係

「デポジットは30%だ 残りは検品後でいい」
運河を見渡すホテルのロビーの片隅で
その男は細いメンソールタバコに火をつけた
この国でも公共の場では禁煙のはずなのだが
セキユリティーガードも咎める様子はない
それはこの男がK1の決勝にでも
出れそうな体格をしているからではなく
生きる為に命を掛け金代わりに使ってきた
特有のオーラが人を寄せ付けないからだろう
ペットボトル一本分のこの砂には90%以上の
金が含まれているという それはこの国では
大家族が10年生活できる価値を持つ
この悪魔の砂に幾多の亡者がその人生を
不本意な形で終えているのを私は知っていた
天井で静かに回るシーリングファンの風が
私のむき出しの腕に感じられた
「ノー 全額検品後だ」（惜しい気はするが）
立ち去ろうとする私の腕を 男が掴んだ

閉館迫る三月のカザルスホールに私は居る
チェロ奏者の息遣いまで直に届く静寂の中
響く楽器の人間的な音色は確かに泣いている
天井、壁、床、椅子、そしてパイプオルガン
パブロ・カザルスが掲げた理想の未来の姿
ホール全てが小刻みに震えながら泣いている
音楽をコミュニケーションの源泉に
世界をひとつのコンサートホールにしたい
そう願う彼をドン・キホーテにする行為
かつて、この国に存在した幻の豊かさが
平和を象徴する音楽の教会を創り上げた
放浪の音楽家が描いた夢を育む殿堂
その偉大なる名を冠した歴史的ホールが
時代の流れに翻弄された末、静かに幕を閉じる
耳を澄まし、心穏やかに過ごす空間の終焉
それは、この美しい歌声を持つ鳥にとつて
ここは、わずかな時間の羽休めをした
とまり木に過ぎなかったのではないかな？

求む スーパーマン

滝田 一三六

まったくあの犬って奴は

岡村正敏

年齢不問 疑問だな
若い方が良いに決まっている
はつきり言ってほしい
あなたには応募資格無しと
経験者優遇ってどういうこと
たいがい未経験者は敬遠される
はつきり言ってほしい
あなたには応募資格無しと
歳は 腕は 資格は……
はい不合格 これも不合格 また不合格
求人票もまともじゃないくせに
面接じゃ勝手な事を言ってくる
あれも これも それも出来る人
求む スーパーマン……

まったくあの犬って奴は、
どうして尻っぽなんぞを振りやがる。
まったく、あの犬って奴は、
どうして舌などをペロンとたらすんだ。
みて見ろ、あの、犬って奴を。
尾っぽを千切れんばかりに振り回して付いて来る。
追い抜いたと思ったら戻ってきて、
と、
思ったら私の胸をぐるりとなんて回りやがるんだ。
そうして、
どうして、
犬って奴は、
あんなにも人を信じきった目をしているのか。
そんな目でおまえに見上げられてると、
私は、
このまま、
消えてなくなってしまうたい。

ふたり

あおい満月 みづき

遠い口づけ
 近い視線
 離れていく言葉
 ふたりとは
 鏡のような時間
 ひとつであって
 ひとつになれない
 かみあわないバズル
 これがふたりのリズムなら
 ほどよい間隔で響かせていよう
 わたしとあなた
 あなたとわたし

とびのまき

添田明里

言葉を
 風にのせる
 届かない
 場所なんて
 本当は
 どこにもない
 心は
 うまく使え
 宇宙は
 美しくも
 醜くも
 変わる
 詩人と
 他人に
 投げるなら
 泥団子
 ではなく
 お花を
 体すら
 捨てるとき
 残るもの
 だけが
 真実の
 わたし
 世界と
 人間の
 歩きかた
 和せよ
 なれど
 一人であれ

感謝

福島雅人

願わくば

草原の夕日

食べる事も
 笑う事も
 泣く事も
 歩く事も
 話す事も
 立っている事も
 寝る事も
 文句を言う事も
 みんな みんな
 生きているからできる事なんだよ
 だから
 毎日 朝をむかえらわれるって事に
 感謝しなくちゃ

願わくば、このままずっと
 座っていたい
 願わくば、このままずっと
 眠っていたい
 願わくば、このままずっと
 話していたい
 一事が万事、
 このようであれ。
 坐り疲れるまで座るのは
 つまらない
 眠り疲れるまで眠るのは
 つまらない
 話し疲れるまで話すのは
 つまらない
 座り疲れる前に立ち上がるのがよく、
 眠り疲れる前に起き上がるのがよく、
 話し疲れる前に切り上げるのがよい。

心の折鶴

雪した桜

あなたと私の
そして
傷ついた
すべての人の心へ
一枚一枚
心を込めて
幸せの鶴を折りましょう
みんなの心の中に
今日も
脚手も
あさっても
愛の折鶴が飛んで
活きますように
心を込めて
祈りましょう

森の中で

美莉亜

一枚の木の葉が
輪廻を描くとき
湖に
運命が
舞い降りた
それは
静かな
小波をたてて
時と共に
流れていった
かすかな
余韻を残して

消えてく影

安藤理多

夕暮れ時の長く伸びた影
私は独りで風に吹かれて
我が道を歩く
そこにどこか似たような影が
背後から現われる
いつも「お前の影などない」
そう言って私は道からはみ出される
夕暮れの風に吹かれたことは
寒冬の氷のようになり
私は影を消したくても消せない
消せないことが疑問になり
やがて背後の敵に憎しみを覚える
憎しみは消えず
背後の影がなくなることを願う
そんな願いは氷のように身を切る

魂だ

松崎喜之

...

岡田 尚

革命前夜

みやすけ

静かな時
口に出せない思いが
目から溢れる
私の横で丸くなっている
愛犬をなでながら
まだ起きてもない
明日を作ってしまう

24時間
寝ないで
仕事しろと
言われて

光をまごころながら
零した溜息の重さ
はるばる遠くから訪れた幸福を薙ぎ払い
世に席卷する欲望は
その眼で様々な奴隷を喰らうてあろう

ならば自分をなくしてみる
まず丸くなってみる
誰かになでられる
イメージを持つ
口に出せない思いが
声になる
それを聞いてくれるのは
本当の自分だ
隠れていた
魂だ

「やる気が
あるのか」
と
おこられた

夜空に掛かるのは 精神の水面に震える
枯れ葉の重み
世の中に疲弊し その苦悩の表情に映える
輝きを 運命の糧にして
寒さに凍えた掌を 今見つめる

人の心は

おおら 和男

人は プレていい
 生きているのだから
 プレていい
 プレない 心なんて
 ありえない
 もし プレない心が あるとすれば
 それは 異常である
 人の心は 移ろい 変わるもの
 むしろ その方が 自然である
 プレない方が おかしい
 プレないのは 異常
 人は いつも 変化しているのだから
 人の 心は 常に
 変化しているのだから
 人は プレていい
 人の心は プレていい

無言の幸せ

北野 麟朋

君は僕の心を奪った
 そんな君が涙を浮かべた
 君は僕の言葉さえ奪った
 だから ただ 僕は
 抱くことができなかった

エンシヨウ反応

仲倉 詩織

私は夏になると発熱する。
 エンシヨウ反応があるようだ。
 この間まで、とても大事な友達だったけど
 今となってはもう遅い。
 別れたあの人は
 ずっと風ゾクに通っていた。11年間、
 一度も私を抱かなかった。
 …彼女が言った、
 「私、ピンサロで働いたことが
 あるの」
 私の思いやりは冷めた。
 ワーワー泣いて
 何度死のうと思ったことが。
 でも、急いで死ぬこともない。
 だって、エンシヨウ反応が
 あるのだから。

初秋の青い空

吉沢 弘子

恋歌

柏木 美慧

電話口のポーズ

中島 省吾

枯れ葉散る秋の日は
 なぜか淋しく
 ひとり舗道を歩けば
 初秋の青い空に いわし雲
 I Love You ……と
 そっとあなたに ささやけば
 やさしくほほえむ
 あなたの面影が なつかしく
 アパートに帰ったらあなたに
 レターを書きます
 ブルーの花の絵手紙に
 いまでもあなたのことを
 想っています……と
 I Love You
 I Need You
 この愛の言葉を そえて

聴きたくて
 声が
 触れたくて
 心に
 結ばれたくて
 魂と

「ねえ聞いている？」
 「聞いてねえよ。ナンだよ」
 「聞いて言ってるのに」
 「ナンだよ』って何？ 失礼な人」
 「うるせえなあ」
 「人が聞いているのにそんな言い方ありなの」
 「だって、お前と電話だけで話してるって
 淋しいじゃんか」
 「何よ、それ」
 「好きな男と女は電話口じゃなく、
 いつもずっと永遠に」
 「側に居なきゃいけないんだよ」
 「変な人」
 「変だよ。お前って、何でだか、
 俺の神様なんだから。」
 「変な人の俺に舞い降りた天使なんだ。
 だから、いつも体温を感じていたい」
 「天使？」
 「こんな俺の側に一生居てくれる、
 人生の話し相手だから」
 「変な人ね」
 「電話口でさりげなく聞かされたそれは、
 アイツのプロポーズだった。」

春の花びら

はるまち草

この季節は淋しくなんかないよ
桜を見る事ができるから
ふたりで桜を見ることは
離れていてかなわぬことだけど
ひとりで散っていく桜を
はらはらとながめながら君を想っ
きがつけば足元はピンクのじゅうたんだ
いちまい いちまいが
想いの花びらとなって
ハートの形をした花びらが
気持ちを幸せにしてくれるんだ
あなのあいた心
泣き虫はいらないうように
春の花びららっぽらっぽらつめこんで
はらはらっ
君を想う時間が
心を満たしてくれるんだ

何か

結戸敦子

季節が
また
かわっていくね
寒かったり
暑かったり
めまぐるしく中で
何か
ないのかな
くやしその他
ずっと
かわらないで
いてくれるもの

巡り逢えないのに

中島省吾

シスターK 貴方に逢える日曜日
貴方と唯一話ができる日曜日の教会
ありふれた日曜日でも
私は楽しみにしています
貴方はこのまえFさんが電話口で口説く事を
話していたけど
貴方のTEELナンバーを知らない私は
そんな事はしないし たとえ知っていても
そんなふうにはなれないから
安心して下さい
貴方が私の心にある信仰の木の枝を
伸ばしてくれたというのは
私の妄想かもしれませんが
妄想の葡萄の木には花が咲いて
もつすく実が成って食べられそうです
だけどやがて葡萄の木は
枯れてなくなるのかもしれませんが
貴方に似合つのは
「やったー！ 最高の幸せ！ 最高の道！」
たとえばそんな台詞です
シスターK 貴方と 私とは
運命の人として巡り逢えないと判っている分、
十一月の風は淋しく感じられます

黄色い花

ブルバール

再会

美都

「ごごちはそれから、ありがとう」

闇 耀映

朝です
ぼっぽつと 雨が降ってきました
道端に咲いた 水色の
あじさいの花が キラキラ光っています
小学生の子供達が
黄色い小さな傘をさして
一列に並んで 歩いてきました
まるで黄色い花が咲いたようです
小さくて可愛い黄色い花さんたち
行っ行ってっ行って

また会えたね
いつもの道の
いつもの木陰
ぽっかり咲いたピンクの花
ある時は雨の中
ある時は半分倒れながら
うつむきがちに
訪れる人を待つ
ああ また
一年たったんだね
今年も君に会えてうれしいよ
大好きなホタルブクロ

赤紫色の花が一輪 咲きました
次の日から一輪 また一輪と咲き続け
今では満開になりました
あまりの美しさに嬉しくなって
「ごんにちは、それからありがとう」
と言っしまつのは
心を込めてお世話してきたからでしょうっか？
赤紫の花々からも
「ありがとう ありがとう」
と言っ声が聞こえてくるのは
けして気のせいではないはずですよね
ごんにも美しく咲いてくれて ありがとう
ごんにも幸せな気持ちにしてくれて
ありがとう
—— フランネル草 ♪
あなたと出逢えて 本当
……よかった！



定食

現世乱歩

I 納豆

ボクシングを観に行つて
自分がKOされたような顔して帰つて来た
あんたが朝餉にうれしがるは納豆

お休みの日のラジオは
朝っぱらから演歌なんぞをやっている

一人暮らし用の納豆は

おもちゃのカラーテレビくらいの大ききで
あたしそれに誘われて思い出し話ひとくさり
…お祭りの出店で売つてたっけ

リカちゃん人形のレストラン・セット
塩化ビニールかなんかで作つてあるのか
かつん!と固いオムレツの横

紙くずみたいなパセリがあつてね
あれが とつても 欲しくつてサ

ぼつん ぼつんと区切るように言う

けど 椀の納豆かき混ぜながら

本当に 本当のところ思ったことは これ
死んでから こんな粘っこいなんて

まるで女みたいや なあ

あたし うつむいたまま納豆に醤油
ぶっちゃけた

ねエ…と上目遣いにあんたを見る

あたしのこんな思いつき

気がついているのか いないのか

あんた新聞ばさばさいわせ背中こう言う

「玉子入れてくれよ」

「…ん」

ラジオでは 八代亜紀が うたつてた

II いわしの詩

身の縮まりなく やたらコゲコゲ
そのくせ骨にべっしよりくっ付き
身離れ悪し
味はほろ苦…というより苦みばっかり

朝餉に焼いたいわし四匹ちと古かつたようだ

けれど私 せっせといわしをたいらげる
とうの昔にお肌の曲がり角 曲がつた十歳
身につまされる思いでいわしを齧る
齧りつつお箸の先っぽでなでてやり
「よしよし お前も
好きで古くなつたわけじゃないもんね」

さてこのつぶやきを聞きつけたおふくろ

「何だか 私のこと言われてるみたい…だわねエ…」

そして ひと口 お茶を含む

ずずつ!!と音 伏せられた目

…

うっかり空けてしまった ひと呼吸

その後に私慌てて付け加えた

「いやあ、昔っからさ 言うじゃない こうさ
『女房といわしは新しい方がいい』って」

「畳と女房」とは知つてて言わぬ

おふくろ

私

どちらも女

III たら子の煮付け

叶わなかつた願いの数だけ
つぶつぶがぎつしり詰まっているみたいな
たらこを煮付ける

頬を伝う涙のゆるやかさ描いて

落ちてゆく金色の味噌と

容赦なく真黒なお醤油とで

甘塩っぽく煮よう

懸命に走つて祈つて

それでもたどり着けなかつた願い

摘んじやいけない花みたいだった願い

最初から石ころを眺める目で見ていた願い

ひとつぶ ひとつぶ

生命だつた頃があつたたら子

ひとつぶ ひとつぶが

いのちだつたはずの願い

湯気を上げている茶色いやつを

ひと口 あぐつと頬ばれば

「いつの世にも そんなものがあつたさ」
なんてどつかのおじいちゃんの言葉みたい

後から つううんと 生姜の香り

◆川島理生子様

7月号P14

『La Jenue Martyre』

とても観察力があって、言葉のレベルも高く、私には難しくて書けないテーマを上手に書いているので、才能があるんだなあと思いました。川島さんの詩や短歌には毎回、感心しています。

◆小林智恵様

7月号P35 連作短歌

(雨の日のラブソング)

どの短歌もとても素敵で、私の好みや理想にもぴったりで良かったです。

ふと口ずさむ淡い恋歌

移り気な紫陽花色に染まる雨
香りし後の

幾千の雨のつぶてに叩かれて

など、きれいな言葉が心に残りました。

◆現世乱歩様

7月号P72『さといもの葉』

白黒はっきりした答えではなく、あいまいなだけで何かいい方向を示してくれるというか、やさしく励ましてくれるような矢印なんだな、と思いました。

ころんころん天からの雫を集め
とか

ころんころん笑いながら
というところも、かわいらしいなと思いました。

◆結城 遙様

7月号P93 (月灯りの下で)

前号の作品を素敵にイラストと字体でデザインして下さいありがとうございます。このコーナーに取り上げてもらうのが夢だったので、とても光栄です。

◆現世乱歩様

7月号P24『ひまわり』

「のたくる」「うねる」「喘ぐ」…。「描く」ではなく、「叩きつける」。「愛したタヒチ」と聞いて、妙に納得。暑苦しい極彩色じいさんが浮かんで参りました。なんと、三十代で亡くなってるんですね。じいさんじゃなかった……。

「何とかは紙一重、の紙が破れちゃって、生きづらかったでしょうね。涙や汗の濃度も、さぞかし濃ゆかったことでしょう。自殺してしまう前に、一回ぐらい日本にも来てくれればよかったのに、と、わたくし日本人は思います。

ゴッホさんの魂が安らかでありますように、と、なんだかしみりしてしまいました。

◆川島理生子様

7月号P14

『La Jenue Martyre』

絵の具で描いた詩のような絵画に、言葉で描いた絵のような詩がピッタリで、とても綺麗でした。誰も邪魔できない美しさですね。

ドラローシュって、どこかで見た名前だなと思ってたんですが、さとうまきこさんの書かれた童話『レベル21 アンジュさんの不思議ショップ』にちょっと出ていたんです(1992年、理論社)。

ドラローシュの『レディ・ジェーン・グレイの処刑』という絵が引き合いに出されていました。お時間おありでしたらぜひご一読下さいませ、おススメです。

◆川島理生子様、現世乱歩様、5月号(P85、P86)では感想をいただき、ありがとうございました。

FAN LETTER BOX

— MY 詩集 今月号の作品への感想コメント募集 —
次の号に発表します

●書き方

掲載ページを参考にして、ご自身のお名前、作品の作者名、月号とページ、作品タイトル、感想コメントの順に書いて下さい。
詩や作詞についての考え方やご意見なども、ここで発表できます。
感想コメントの後に続けて書いて下さい。

●用紙と長さ

A4判の400字詰原稿用紙に横書き。ワープロ印字用紙も可。
長さ不問。感想の対象となる作品数(作者の数)は自由。

●受付期間

8月1日～8月20日 (掲載発表は9月26日頃発売の11月号)

●送り先

〒332-0015 川口市川口4-3-18 マイ詩集 11月号ファンレターBOX係

読者の方は、原稿の末尾に住所氏名・電話番号を明記して下さい(非公開です)。
マイ詩集の同人の方は、同人番号を明記して下さい。
いただいた感想に対するお礼や意見だけの内容のご遠慮下さい。
相手の方が今月号に発表されている詩・作詞・短歌・文章・写真などに対する感想を優先して下さいますようお願いいたします。



◆みずはら あつき様

7月号P32 連作短歌
短歌とカタカナのスポーツ用語が、こんなにも馴染むものなのですね。目からウロコの思いがします。このカタカナ語が、みずはら様の短歌をよりさわやかにしているんですね。

◆添田明里様

7月号P45『里いもの煮ころがし』
とても楽しい詞であり、詩でありますね。親しみやすい題材と、すばらしいリズム感を持っていますね。

7月号P88では、感想コメントと感想短歌、ありがとうございました。短歌をさらっと書いてしまう能力…これはもう、才能ですね。

添田様の作品のなかには中也の詩のリズム感の素晴らしさとよく似たものを感じるのですが、中也を知らないとおっしゃる……。もしかしたら添田様の愛読された詩人のどなたかが中也を好きだったのかもしれないね。『里いもの煮ころがし』を読んだとき、反射的に中也の『正午』を思い出したのです。「あゝ十二時のサイレンだ、サイレンだサイレンだ／ぞろぞろぞろぞろ出てくるわ、出てくるわ出てくるわ……」（岩波文庫1981年版「中原中也詩集」より）。

◆鳴海杏士様

7月号P45『手紙を書く』
「手紙を書く」の連呼に、かなりハードなロックを感じます。手紙を書く、だからいいんですね。メールを打つ、としたら、何となく無機質な感じになってしまい、ロックは聞こえてこなかったらと思うました。

歌われている世相も何となく、ロック黄金期の昭和の雰囲気を感じます。経済成長期の頃を思い出してしまいました。いつの時代も若者は、その時代の中で迷子になりながらもひたむきに生きているんだ、と思いつつ、読ませていただきました。

◆ゆめ様

7月号P8『種まく人』

◆現世乱歩様

7月号P24『ひまわり』

お二人ともゴッホの魅力に迫っておられて、感銘を受けました。

印象派の中でも指折りの、抜きん出た破格の存在ですね。悲劇的最期を遂げてはいますが、没後には弟テオの奥さんがゴッホとテオの往復書簡を発表したのがきっかけで画商の目に留まり、強烈な色彩や筆使いを持つ傑作の数々が絶賛を浴びて、人類の遺産として光輝を放ち続ける画家です。

彼の生涯を偲ぶよすがとして、映画ではヴィンセント・ミネリ監督の『炎の人ゴッホ』等がありますが、舞台劇の『炎の人-ゴッホ小伝』（主演滝沢修他）があることも見逃せません。激しい気性の持ち主であるゴッホの生き様が克明に演じられていました。

お二人の詩の力強さや鮮烈な筆致に触れて、映像で見たゴッホのあれこれも思い出し、人生の奥深さというものもあらためて感じました。

◆現世乱歩様

7月号P24『ひまわり』
最初の出だしから引き込まれました。第二連の

**のたくって跳ねる油絵具から
うねる筆が見える
躍動する肩が見える
喘ぐ息が見える
カッと見開いた目が見える
したたる熱気の全身が見える**

ここは、『ひまわり』だけではなく、ゴッホ自身を描いていることに気がつきました。ゴッホの作品だけではなく、ゴッホの生涯そのものを描いている詩だと思いました。

**ゴッホよ
一枚の画布に向けて
自分を叩き付ける
ゴッホの姿よ**

ここで、私も昔、絵を描いていたことを思い出しました。あの頃的情熱がよみがえってきました。また、油絵が描きたくなりました。

◆滝田一三六様

7月号P2『歩く』
まるで僕を見透かされたと思う程すばらしい作品に感じました。僕は今も、目と鼻の距離で三角形の二辺を高速でゆき、5分短縮を200円で買った、と喜んでます。

◆闇 耀映様

7月号P36 連作短歌
(雨の日のラブソング)
女性の心の時間に乗ってうたいあげた絶品の感ありと思いました。身につまされる作品です。僕の場合は「この心」を思いやっただろうか…反省。

◆美莉亜様

7月号P77
『こぼれおちる涙の雫』
これは神話の世界にある、おとぎの国の清浄無垢な心をうたった作品に感じ、心を清められました。

◆小林智恵様

7月号P35 連作短歌
(雨の日のラブソング)

**傘を打つ雨のしずくにそぼぬれて
ふと口ずさむ淡い恋歌**

この歌には、小林さまのせつなさが感じられて好きです。とてもせつない恋の歌だと思えます、この短歌も、その日に口ずさまれている淡い恋の歌も。私も小雨の降る日に外出したことがあるのですが、あじさいの花がとてもきれいでした。

7月号P83では私宛ての感想コメントをありがとうございました。

◆中山めぐみ様

7月号P75『洋装の俳人』
「洋装の俳人」というタイトルは、土方歳三氏を実に良く表現なさっていますね。俳句が日本独自の文化であることに鑑みれば、他国の文化への傾斜が服飾等の表層に留まらず自国の精神をも放擲している、現代人への叱責にも思えました。

この作品には現代の日本が忘れていた大切なことを訴えている詩句も少なからずあり、素晴らしい箇所が多々ありますが、最も感心したのは最終句です。

あえて時代に逆らう事となった君

君がいたから 革命はなりたった

好敵手がいなければ 革命すらも灰となる

明治維新は、武家社会という既存の秩序を破壊しながらも、無政府状態などの国家的自滅を回避することができて、近代国家としての船出となりました。

私見ですが、そういう画期的なことが可能になったのは、旧来の社会で通用していた規律や規則が大幅に変えられることになっても、人として生きる者の倫理や道徳、道義的な慣習といったような部分が、保守されていたからだと思います。

維新の英傑を育んだのは旧体制下の教育でした。武士道の精神に沿う躰がなかったら、明治の元勳のような人物も現れず、維新も成し遂げられなかったのではないのでしょうか。

冒頭の「若葉眩い 新芽」には明治政府を、「冷たき雪」には「君」を始めとする志士たちの死を映しているのでしょう。自然の循環から看取る、中山さんの優れた観察眼と洞察力にも、感服いたします。

昔日の人に逢うことは叶いませんが、私も中山さんの詩を読み返しつつ偲びましょう、義に馳せ義に殉じた「洋装の俳人」を。

◆結城 遙様

7月号P34 イラスト
7月号P92 (月灯りの下で)
いつも美しいイラストを拝見させていただいていますが、P34 (テーマ雨の日のラブソング) は、窓ぎわで物思う表情に切なさを感じました。P92のお言葉、僕自身も、既成、情性に流されてばかりで、まさに「己が恥ずかしい」と感じています。

◆現世乱歩様

7月号P72『さといもの葉』
さといもの葉は やさしい矢印
いまを生きる中で、進む道を選ぶなければならない場面に直面することは多々ありますね。迷いに迷って身動きがとれなくなってしまうと、本当に「さといもの葉」のような、目立たない矢印にすら、すがりたくなることがあります。

でも結局のところ、最終的にはどの道を行くにせよ、その道を選ぶのは自分自身であることも、わかっているのです。

それ故で、矢印も

決して答えそのものを指差さない
のかもしれない。

けれども、

いっしょに「なぜ？」と

考えてくれるように
迷っているときに直接的な答えが見つからなくても、寄り添ってくれている。それだけでも、心強く思えるものですね。

7月号P86でいただいた感想の中で、「茨木のり子さんご自身に向けてのお言葉だったとの説もあります」、なるほどと思いました。自分自身への叱咤だと思えば、「ばかものよ」の言葉にも、より一層の深みを感じます。

◆吉沢弘子様

7月号P73『四月の雨よ』
**雨の四月もまた、おもむきがあって
いいのではないか……**

吉沢さんの作品は今回も、視点を改めて見ることを教えていただいた気がします。いつも短絡的に、雨＝憂うつ、と決めつけてしまうところのある僕ですが、「こころの想い出を／やさしくいたわる」ような雨、そう思えば、雨の日もあながち悪くはないものだな、と思えて来ました。

ふだんなら目にとめないような風景の描き方がとても細やかですね。「つつじのもも色の花」「うすむらさき色のすみれの花」「しろい雨つぶは／真珠のようにかがやいて」というフレーズからは、作品のページがカラーに見える錯覚すら覚えます。

◆中山めぐみ様

7月号P75『洋装の俳人』
「洋装の俳人」「君が深く散り急いだ季節は皐月」「北の大地の雪解けをみつめ」……これらのキーワードやフレーズで、誰のことを指しているのかは僕にも想像がつかしました。僕から見るとその人は、「時代に逆らう」道を選んだ「武」のイメージしかなかったのですが、俳人としても美しい作品を残していたことを知り、その意外さが心に響きました。洋装の俳人に向けた思い入れが溢れる作品ですね。

7月号P88でいただいた感想のなかのお言葉、「もっと、そこに近づきたいから、憧れる」。まさにその通りで、僕は茨木のり子さんにはなれないし、その志しの高さや思いの深さには到底届かない、でも、茨木のり子女史の思いに少しでも近づきたくて、憧れるのです。

◆あおい満月様

7月号P74『ココロ』
**ココロの骨が折れたとき
私の鏡には何も映らなかった**
ココロの骨、どこにどんなかたちであるのかはわからないけれど、音も立てずにそれが折れたような状況を経験したことのある僕の実感から思うに、間違いなくどこかにあると思います。

折れたときの情景が、古傷のようにならず痛みを察すると、ほんとうに切なくなります。

7月号P88の感想の中で触れて下さった、茨木のり子さんの詩『汲むーY、Yにー』の一節、「初々しさが大切なのは、親交のあった舞台女優、山本安英さん(戯曲『夕鶴』の主人公つう役を千回以上演じ続けた)の言葉を、茨木さんがご自身の詩に取り入れたものでした。

茨木さんはその詩で「私はどきんとし／そして深く悟りました」と続けています(花神社1996年版「増補版茨木のり子」より)。

僕も、あおいさんと同じく、はっとした一人です。

◆ゆめ様

7月号P77『無限』

この安らぎ

光よ

日曜日の朝よ

がむしゃらに走り続けた一週間の区切り、静かでうらかな日曜日の朝、どこかほっとするひとときが伝わってきます。

明るい光を浴びながら、張りつめていた心の糸を緩めて、さあ、今日は何をしようか。そう考えると、次の日曜日が楽しみに思えてきます。

夢色茶房 仁美

◆ 三輪えみ穂様

7月号P31 短歌

私、時々母の様子を泊まり込んで見ている身ですが……本当に介護をされている皆様ありがとうございます。本当に。

◆ 渡辺律夫様

7月号P33 短歌

せがれは今、どうかこうにか職に就き、まじめに勤めておりますが、そりゃぁもう色々々々、腹が立つやら情けないやら、どんなに心配しましたやら、耐えました、子も親も。

◆ 酔生夢三死様

7月号P45

『どうせ乗るなら路線バス』

バス乗りたーい！ 五年程前までは、仕事の関係で毎日のように、バス、電車からの、景色なり、同業の人々の様子なり、楽しんでおりましたので、乗りたい、乗りたーい。

◆ 木立かおる様

7月号P51 『ヒーロー』

久々に柴又に帰って来て（シリーズ何作目だったかしら……）、おばちゃんが「今、あったかいおうどん作ってやるからね」って、そしたら「鳴戸巻はいらんよ、あのウズ見ると目がまわるから」なーんて、甘えて答える真さん。ステキ、ですね。

◆ 松崎幸枝様

7月号P76 『涙』

鬼にも蛇にもなりますし、苦しくて身もだえもいたしますが、7月号P79 福島雅人様が『魔法の言葉』でも教えて下さってるように、心から「ありがとう」と言えたら、愛しくなりますよね、周りも、自分も。



ココロの骨が折れたとき
わたしの鏡には何も映らなかった
ただ、空だけが、
空だけが青く
高かったのを憶えている

あおい満月様

7月号P74 『ココロ』より

暑中お見舞い申し上げます。
皆様、夏は好きですか？
晩秋に生まれたからというわけでもないのですが、ちょっと苦手。(笑)
雨上がりの木々の匂いとか、浅く速く流れる川に足を浸らせて、とかは、好きですけどね。



傘を打つ雨のしずくにそぼめれてふとロずさむ淡い恋歌

小林智恵様

7月号P35 連作短歌

月灯かりの下で

MY詩集7月号(375号)より

結城 遙

YUJICHI HAYASHI

e-mail: hayashicr0002@yahoo.co.jp

こんにちは。結城 遙です。
我が家の庭では、頂き物のちょっと小型の(^_^;)ヒマワリが、「もっと晴れておくれよ〜」と言いたげに、南を向いて背伸びをしております。
種で頂いて、2年目の今年も、元気いっぱい咲いております★
運しいお花は大好きです〜 (**^^)

手を洗い

タオルで拭いているときに

ラッコみたいと母に言われ

思わず笑ってしまった昼

7月号 P81 草原の夕日さま「ラッコ」より

お母さまとの穏やかな日常のやり取りが目に浮かび、思わず微笑んでしまいます。きっと、よほど可愛らしかったんでしょうね。ラッコのような仕草が… (**^^)

背中を
見ていた

あなたの背中を

ふり返って
もらえなくても

人湿みに

夕闇を連れて

いつのまにか

見えなくなった

7月号 P67 結戸敦子さま 夕闇 より

P64〜結戸敦子さま 作品集より

結戸さまの作品集、堪能させて頂きました。扉イラストが、可愛い！絵本の世界ですよね〜。結戸さまの描かれるスリーピングお魚さんには、いつもめろめろ〜な結城でございます。

デジカメ写真を撮るのが苦手です；最近のデジカメは、オートで露光に任せてくれるのですが、つい、手動に切り替えてしまって、括ってしまうのです；；故に、指差が、ボケボケのことが…；括って、再生画面で見ると、すごく露光に任れているように見えるので、「うん、OK!」と自己満足して、帰ってからパソコンで見てどっくり；；；セルフタイマーで撮る、という秘訣も教わったのですが、つい面倒で…；手動を惜しむこのおおちゃくな性格が災いしております；

編集飛行記

マイ詩集同人のみなさまへ

配本追加を希望される方…

同人の方には毎号1冊ずつ配本があります。最新号だけ配本冊数の追加をご希望の場合は1冊につき送料共100円切手の枚同封で(銀行振込の場合は送金日を記して)偶数月20日までにお申し込み下さい。

送り先… マイ詩集配本追加係

配本冊数の追加を、毎号ご希望の場合は本誌P100「年間直接購読係」で

予約したいね。

同人継続を希望される方…

継続に必要な案内書と申し込み書類は作品掲載期間の最終号配本時にお届けしています。最新の入会継続案内書をご参照の上、お申し込み下さい。



各コーナーへの送稿、お申し込みの前に最新号で募集内容とルールをご確認下さい。

送稿作品の傾向・みなさまのご意見・編集事情等を反映して募集内容や規定が変更される場合があります。

●ご質問・ご相談の際には

入会継続時の案内書もご参照の上で「マイ詩集○○係(質問在中)」の表書きをお願いします。

* 係名のないものや正しくないものは、対応が遅れますので、ご留意下さい。

* 発表希望の作品についてのご質問ご相談は試作品でも原稿を拝見させていただきますと適切なお答えができると思います。

* 同人同士の合作を希望される方には、可能な範囲で原稿のお取次ぎをします。

「希望内容を具体的に記して「マイ詩集合作希望係」にご相談下さい。

●マイ詩集のご感想・ご意見・リクエストなどのお手紙は、いつでも歓迎しています。

送稿作品に添えて下さる場合は、別紙での同封をお願いします。(単便は「マイ詩集熊谷ゆき宛」)

●住所変更のお知らせは、郵便でお送り下さい。

「マイ詩集住所変更係」宛てに封書か葉書をお願いします。

●お切日の翌日頃から月始めにかけて編集制作関係のお手伝いをして下さる方のご連絡をお待ちしています。

編集製版の経験者を歓迎。

遠方の方は郵送可能な範囲のみ。最初はお手紙でご連絡下さい。

(マイ詩集 熊谷ゆき)

同人/読者

メール送稿のご案内

発表用作品

- 発表作品の長さや内容などは、各係の募集規定に従って下さい。作品募集ページの一覧は、P100右下にあります。
- 送り先 同人：登録グループ名@my-shishu.com 読者：reader@my-shishu.com
登録申込みは、作品受付期間の前半に、郵便で受け付けます(マイ詩集 同人メール送稿者登録係)。
- 送稿できる係(メールの題名)
同人のみ： ○月号自由詩発表係 ○月号作詞発表係 ○月号[テーマ名][作品形式]発表係
同人または読者：○月号作詞ワークショップ係 ○月号短歌作品係 ○月号ファンレターBOX係
* 郵送の場合と同じ係名でお願いします。
* 2つ以上の係へ送るときは、1つの係につき1通として、それぞれを別の便に分けて下さい。
1つの係に2作品以上送る場合も、1作品1通ずつにして下さい。
* 長文テーマ作品の送稿には、専用の別アドレスで対応します。
合計字数(400字詰原稿用紙の枚数)を明記して、受付期間前半にお問い合わせ下さい(題名：送稿相談係)。
- メールの本文
* 直接テキスト入力して下さい。画像その他の添付書類は不可です。
* (1)係名、(2)同人番号、本名(読者は住所本名電話番号)、(3)原稿(題名、作者名、本文)、(4)印刷担当者への連絡事項、(5)編集者講師へのメッセージ、という順番を守って下さい。(4)(5)は任意事項です。
* 原稿の前後には、分かりやすいように(記号の連続入力等で)区切りを入れて下さると助かります。
* 原稿内のルビが必要な場合は、故郷 {ふるさと} のように、カッコをつけて下さい。
* 特殊な記述記号は使用できません(作詞でリフレインを示す※印などは使用できます)。
- 注意事項
* 受付期間の日数に余裕がなくなってきたからの送稿は、ご勘弁下さい。入力ミスや募集規定違反がちです。
* メールは創作の手間を省く手段ではありません。作品の推敲には時間をかけて下さいますようお願いいたします。

書き方のサンプル

○月号自由詩発表用 同人番号xx-xxx X X X 子

20th Anniversary

飛鳥

風の様に過ぎ去った時間
束の間擦れ違った人々
その一つ一つが私の細胞の中に息づいている

制服に身を包んでいた頃
出逢ったこの場所がなければ
きっと今日迄書き続ける事はなかっただろう

制服が要らなくなって 社会を知り
やがて妻となり母となっても
変わって行く私の最後のライン守ってくれた

今 原点に還ろう
20年前 胸をときめかせて頁 {ページ} をめくっていた
あの頃の気持ちに戻ろう
私は私
何ひとつ変わりはしない

*****ここまで原稿*****

題名は全角の縦書き印刷で、
本文第4連の「20」は、ひとマスに納めて下さい。

今月号P.xxの詩に深い感動を受けたのがきっかけで書き上げました。学生時代を象徴する「制服」が2回も登場するのでいかがでしょうか。よろしく申し上げます。

●発表用原稿以外のメールについて

- * もう一人分の同人・発表保証追加 (P95) * 特集号掲載希望 (P96) * 規定外作品掲載希望 (P100)
 - * バックナンバー購読 (P97) * 配本追加 (P95) * 定期購読 (P100) * 新人係 (P103)
- これらのお申し込みは、editorsroom5@my-shishu.com で受付けています。
それぞれの案内ページに記載されている申込み規定に従って下さい。1件ずつ別便でお願いします。
上記以外のご用件連絡・ご質問ご相談等については、郵便または電話でお願いします。

マイ詩集 バックナンバー ON SALE

号数を指定してご送金下さい。1冊=送料共700円 3冊=送料共2000円 5冊=送料共3000円 10冊=送料共5000円

〒332-0015 埼玉県川口市川口4-3-18 マイ詩集 バックナンバー係

Fax 048-241-7750 editorsroom5@my-shishu.com

現金書留・切手代用(合計額2000円以内のみ。100円切手使用)・銀行振込(三井住友銀行高円寺支店 普通1279529)

♣ 1998年 特集テーマ

- 1月号 (vol.300) この想いは木枯しに負けない
- 3月号 (vol.301) ふたりでお茶を
- 5月号 (vol.302) 萌え出づる蒼い恋
- 7月号 (vol.303) 真珠の涙
- 9月号 (vol.304) 天使と小悪魔
- 11月号 (vol.305) 月は優しい夜の魔術師

♣ 1999年

- 1月号 (vol.306) 聖夜☆あなたと雪と音楽と
- 3月号 (vol.307) 優しく歌ってあげる…
- 5月号 (vol.308) 5月の森色オルゴール
- 7月号 (vol.309) 畏
- 9月号 (vol.310) 銀河
- 11月号 (vol.311) 駅

♣ 2000年

- 1月号 (vol.312) DOLL
- 3月号 (vol.313) DREAM
- 5月号 (vol.314) GAME
- 7月号 (vol.315) RAIN
- 9月号 (vol.316) 電話
- 11月号 (vol.317) 薔薇

♣ 2001年

- 1月号 (vol.318) 卵
- 3月号 (vol.319) 波
- 5月号 (vol.320) 翼
- 7月号 (vol.321) VOICE
- 9月号 (vol.322) COLOR
- 11月号 (vol.323) BIRTHDAY

♣ 2002年

- 1月号 (vol.324) CHRISTMAS CARD
- 3月号 (vol.325) 鍵
- 5月号 (vol.326) 窓
- 7月号 (vol.327) 林檎
- 9月号 (vol.328) 太陽
- 11月号 (vol.329) 鏡

♣ 2003年

- 1月号 (vol.330) 三日月
- 3月号 (vol.331) 雪
- 5月号 (vol.332) 記憶
- 7月号 (vol.333) 空気
- 9月号 (vol.334) 水
- 11月号 (vol.335) 名前

♣ 2004年

- 1月号 (vol.336) 月
- 3月号 (vol.337) 星

♣ 2004年 特集テーマ

- 5月号 (vol.338) 海
- 7月号 (vol.339) 夜
- 9月号 (vol.340) 壁
- 11月号 (vol.341) 伝説/MY詩集創刊号

♣ 2005年

- 1月号 (vol.342) 自由/遠い町創刊号、2号
- 3月号 (vol.343) 猫/家族/遠い町童話選集
- 5月号 (vol.344) 桜/メロディ
- 7月号 (vol.345) 紫陽花/リバイバル
- 9月号 (vol.346) 雲/プライド
- 11月号 (vol.347) コスモス/木霊

♣ 2006年

- 1月号 (vol.348) クリスマスソング/扉
- 3月号 (vol.349) ジョーカー/夜のチョコレート
- 5月号 (vol.350) 花物語/少年時代
- 7月号 (vol.351) 瞳/回転馬
- 9月号 (vol.352) 影/図書館
- 11月号 (vol.353) 嵐/果実

♣ 2007年

- 1月号 (vol.354) 灯/S F
- 3月号 (vol.355) フルツ/星物語
- 5月号 (vol.356) 緑野/船出
- 7月号 (vol.357) 霧/パズル
- 9月号 (vol.358) 砂/秘密
- 11月号 (vol.359) 31(短歌)/夜明け

♣ 2008年

- 1月号 (vol.360) ナイフ/旧友
- 3月号 (vol.361) 約束/部屋
- 5月号 (vol.362) 春の嵐/赤と黒
- 7月号 (vol.363) 夏への扉/夜景
- 9月号 (vol.364) 夏祭り/ソネット(14行詩)
- 11月号 (vol.365) 19世紀/三部作(連作)

♣ 2009年

- 1月号 (vol.366) シャーロック・ホームズ/ホワイトクリスマス
- 3月号 (vol.367) 灯色の童話/ララバイ
- 5月号 (vol.368) 四季物語/デュエット
- 7月号 (vol.369) 妖精国の住民達/母への手紙
- 9月号 (vol.370) 古書店/9月のバースディソング
- 11月号 (vol.371) 和菓子/ミステリー

♣ 2010年

- 1月号 (vol.372) 冬の星座/ビジネス
- 3月号 (vol.373) 雪の日/PC
- 5月号 (vol.374) 好きな詩人/愛犬
- 7月号 (vol.375) 画家に捧げる詩/雨の日のラブソング

♣ 個人作品集 ♣

現世 乱歩 詩集	(1998年11月号)	草凪 唯 詩集「夜の手帖 II」	(2005年 7月号)
仲田 修子 作詞集	(1999年 1月号)	長路 零 詩集「COSMOPOLITAN」	(2005年11月号)
森京 詞姫 作詞集	(1999年 3月号)	小山 美樹 詩集「In Through the Out Door」	(2006年 1月号)
第1回MY詩集作詞コンテスト 入賞作品発表号	(1999年 5月号)	Y U K I 随想 吉屋信子少女文学 「はるかなる私たちの花物語」	(2006年 5月号)
響 幸哉 詩集	(2000年 3月号)	汀 容茉 随想「回転馬」	(2006年 7月号)
小山 剛広 詩集	(2000年 7月号)	Y U K I 随想 吉田と少女文学「青いノ ォー冊目」	(2006年 7月号)
K・☆・マーホ 作詞集	(2001年 1月号)		
滝田一三六 詩集	(2001年 3月号)	中田ひかり 作詞集	(2007年 7月号)
菊池 恵史 作詞集	(2001年 7月号)	中山めぐみ 短編小説集	(2007年 9月号)
岸田 隆蔵 作詞集	(2002年 3月号)	嶋海 杏士 作詞集「LET'S GO FANTASIA」	(2008年 3月号)
過 負 荷 詩集	(2002年 5月号)	ワルサーP38 詩集	(2009年 9月号)
ちよこ伊バスタ 短編小説「ごましおの心」	(2004年 9月号)	中山めぐみ 詩・短編小説「リねん」	(2009年11月号)
		結戸敦子 詩集「少しものたりないうたの綴り」	(2010年 7月号)

あなたの特集号を発行します

あなたの記念日や 特別な人への贈り物に… 国会図書館収蔵

詩・作詞・イラスト・写真・小説・エッセイ・短歌・俳句 その他
個人作品特集号のマイ詩集発行をお引受けします

作品の未発表/既発表は不問。作品点数・レイアウトデザイン・
写真やイラストのご注文・お手元に置きたい冊数などは、ご相談に応じます。

基本+オプションセット A: ¥48,000

モノクロ7~8P 20冊まで配本無料

基本+オプションセット B: ¥58,000

カラー1Pモノクロ3P計4P 20冊まで配本無料

小特集セット S: ¥38,000

モノクロ4~5ページ 20冊まで配本無料

MY詩集での同人経験のない方は、作品を拝見させていただき、同人同等以上の実力が
あると認められる方を対象とします。

特集 A: ¥68,000~ B: ¥78,000~ 小特集 S: ¥58,000~

セット内容には、いずれも一般的な編集レイアウト印刷のサービスが含まれています。

*ページ数や配本冊数などをセット内容よりふやしたい場合は、お申し込みの際にご相談下さい
(増ページ費用は作品内容や文字数によって若干の差があります)。

編集デザインの全容をお任せいただく場合は、無料で2ページ前後の増量も可能です。

*1ページに収録可能な作品数は、毎号の本誌の各コーナーに準拠します。

長文の1ページあたりの字数も、本誌の掲載作品を参考にして下さい。

ご自身のオリジナル画稿(写真やイラスト)の掲載を希望される場合は、サイズや掲載点数に
よって別料金がかかる場合もあります。

既発表作品については所載誌名や年月をお知らせいただければ掲載可能です。

*特定の月号に掲載ご希望の場合は先着のお申し込み優先、月号指定がない場合はお申込み順です。
特集号見本誌はP.97でご案内しています。

特集号 掲載のお申し込み

- *ご希望の方は、編集デザインその他のご希望を簡条書きしたお手紙と一緒に、掲載希望作品の
原稿をまとめて郵送して下さい(要:返送用切手貼付の封筒)。
掲載希望作品は、後日の作品追加や改稿等の変更も可能です。
- *作品を拝見させていただいた上で、費用のお見積もりと並行して編集デザインのご相談に進みます。

〒332-0015 川口市川口4-3-18 マイ詩集 特集号係

- *メールでのお申し込みは題名「特集号係」として、作品は別便で何通かに分けて下さい。
長文や画像の送稿には別アドレスで対応しますので、あらかじめお問い合わせをお願いします。

TEL: 048-241-7750 MAIL: editorsroom5@my-shishu.com

隔月刊 **MY** 詩集
POETRY and LYRICS
Brand-new works

2010 9月号 VOL.376
MEMBERS INDEX
including VISITORS, Lyric INSTRUCTORS and Art MEMBERS

THEME WORK... (Pokerface) (Telephone) Re-printing... (Rep)

COMMENTS and GUIDANCE TABLE..... Page 4 to5

Member	Works	Page	Member	Works	Page
中田ひかり	2/55 (Pokerface)		みずはら あつき	36	
	41 (Telephone)		多岐ユリ子	37	
仁美	3 (Pokerface)	91	三輪えみ	37	
結城 遙	6 (Pokerface)	93	渡辺律夫	37	
北斗恵惟	7/57 (Pokerface)		小林智恵	38 (Telephone)	
石井美和	8/53 (Pokerface)			90 (Rep vol.375)	
	85		川島理生子	39 (Telephone)	84
蒼月 夢	10/55 (Pokerface)		はこべ	41 (Telephone)	87
微笑里	12 (Pokerface)		聖川 泉	43 (Telephone)	59
ちくち うしめ	14 (Pokerface)		中島省吾	43 (Telephone)	51
神崎進	16 (Pokerface)			64 75 76 85	
	16 (Rep vol.368)		青須賀 了	45 (Telephone)	
古賀さくら	24		星 紫穂	45 (Telephone)	
おおにし やすお	25 88		四谷 文	47 (Telephone)	
中山めぐみ	26 57		寺島昭悟	48 63	
中窪利周	34		鳴海杏士	48	
吉田奈緒	35		有海治雄	49	
小太刀美恵子	35		木下好美	51	
榊工ミコ	36		酔生夢三死	53 87	

Member	Works	Page	Member	Works	Page
木立かおる	59		松崎喜之	73	
北野麟朋	61 74		岡田 尚	73	
雪した桜	61 72		みやすけ	73	
池田計義	62		おおら和男	74 84	
世古よしひろ	62		仲倉詩織	74	
芽吹	63		吉沢弘子	75 86	
泉川正樹	64		柏木美慧	75	
月ノ宮華月	65 (Rep)		はるまち草	76	
ワルサーP38	68		結戸敦子	76 92 (Rep vol.375)	
過負荷	68		プールパール	77	
滝田一三六	69		美都	77	
岡村正敏	69		闇 耀映	77	
あおい満月	70 91 (Rep vol.375)		現世乱歩	78 (Pokerface)	
	86		ゆめ	85 102	
添田明里	70 83		やす ひさし	86 101 (Pokerface)	
福島雅人	71 84		良光	89	
草原の夕日	71 93 (Rep vol.375)		海也	95 (Rep)	
美莉亜	72 83				
安藤理多	72				

次のMY詩集 11月号(377号)は 9月26日ごろ発売

次号掲載の原稿・広告などのメ切……8月20日

定期購読……P.100 バックナンバー・リスト……P.97

デモCD制作INFO&既刊案内……P.67 個人作品特集号INFO&既刊案内……P.96

メール送稿……P.94 同人専用INFO……P.95 原稿募集一覧……P.100

MY詩集同人・入会のご案内……P.103

表紙……………蛭田賢一 Kenichi Hiruta

〒332-0015 埼玉県川口市川口4-3-18 MY詩集 編集部

Phone&Fax 048-241-7750

編集発行人・熊谷ゆき Yuki Kumagai

editorsroom5@my-shishu.com

http://my-shishu.com

◆ **作品形式**……自由詩……20字×20行以内(たて書き)
作詞……20字×30行以内(よこ書き)

◆ 用紙は、A4判の400字詰原稿用紙、または、A4判ワープロ用紙(12ポイント以上を推奨)。
また、行数には、題名・作者名・空行を含みます。
第1行に題名、第2行以下に作者名。
本文は、第3行から書き始めます。

◆ 行数は、第3行から書き始めます。
規定の行数に取める方法も可能です。
初めて作詞をする方は、本誌P.65～66を参考にしてください。

◆ 歌詞の1番2番のフォームを整えて下さい。
1行の字数や合計行数がやむをえず少々越えてしまう場合はその理由を余白等で説明していただければ配慮します。
(1～3字、1～3行以内。適切な言葉や空行をあきらめて不自然な仕上がりにならないのを防ぐためです。
それより長くなる場合は、このページ右下のご案内を参照し募集規定外作品の掲載を申し込んで下さい。)

◆ 原稿用紙右上余白に、4つの必要事項を明記して下さい。
①〇月号発表用 ②同人番号 ③本名 ④自由詩／作詞の種類

◆ テーマ作品の募集内容は、本誌P.23を参照して下さい。
作品形式や行数などの送稿ルールは、毎月流動的です。

◆ 参加者のみなさまのリクエストを随時反映していますので、ご留意をお願いします。

◆ 受付期間……8月1日～8月20日

◆ 送り先……〒332 0015 川口市川口4-3-18
マイ詩集11月号 自由詩 発表係
作詞 発表係

◆ 編集内容のご感想リクエスト、発表希望作品についてのご質問、同人継続の方法、一つの号で二作品以上の発表保証、合作希望配本冊数追加希望、住所変更その他については、本誌P.95「編集飛行記」で、係名のご参照をお願いします。



同期会

やすひさし

アルコールに溶解した自慢話が流れて僕にも飛沫がとびかかり滴りおちた容赦なくアルコールが注がれる
昔の有り場所は親子でも内緒にされる古里の漬け物の僕には自慢などない
それでもさぐりを入れてくる
そりゃく僕にだって秘密はあるさ
あちらこちらにポーカーフェイスが漂う映画のワンシーンのような取り調べ
まるでアルコールに粘着性を失った紙ペラペラとはがれ出す者が続出
座は沸き盛りあがり笑いがとび散る
悟られまいと決心がはしり
無いものは無いのだ最期まで守り抜く顔にはその時皺が生まれ刻まれる
今まで潜り抜けて来た楽しみさ

マイ詩集 最新号の購読

目次(P.4)で予告されている発売日に、書店でお買い求めいただけます。最新号が店頭がない場合は「マイ詩集社発行・マイ詩集何月号」のご指定で書店からのお取り寄せ注文をお願いします。
毎号の定期購読をご希望の場合はその旨を書店にお申し込み下さい。
本誌P.97のバックナンバーは書店でも過去二年以内の月号を注文できます。

マイ詩集 年間直接購読

1年分6冊を郵送でお届けします(送料共4,000円)。何年何月号から何月号までの購読ご希望期間と、銀行振込された送金日を記して、お申し込み下さい(メール連絡可)。
〒332-0015 川口市川口4-3-18
マイ詩集 年間直接購読係

広告掲載ご希望の方へ

目次(P.4)で予告されている本誌の発売日をご参照の上、入稿ご希望内容をご連絡下さい。費用その他はメディアリサーチセンター発行「月刊メディアデータ」掲載の本誌情報に準拠します。
TEL/FAX 048-241-7750 マイ詩集広報部

同人のみなさまと読者のみなさまへのご案内
マイ詩集で原稿募集している係

【読者】のコーナーではマイ詩集の読者のみなさまの送稿もお待ちしています。それぞれの係のルールをお読み下さい。原稿は偶数月20日〆切。掲載発表は翌月26日頃発売の号。
【読者】【同人】は、同人のみなさまも発表できるコーナーです。
【同人】だけのものは、マイ詩集同人(発表メンバー)のみなさまの専用スペースです(複数の作品発表も可能です)。

現在読者で毎号のコンスタントな発表活動を希望される方は、本誌P.103(後表紙内側)の新人係を経て、マイ詩集の同人として創作活動を楽しんで下さい。

テーマ作品(詩・作詞・短歌・小説・随筆等)…… P.23 【同人】
短歌/連作短歌…… P.35 【読者】【同人】
作詞ワークショップ…… P.49 【読者】【同人】
ファンレターBOX…… P.82 【読者】【同人】
自由詩/作詞発表係…… P.100 【同人】
同人のみなさまへのお知らせのご案内(編集飛行記) … P.95
メール送稿のご案内…… P.94

募集規定外作品(行数の多い詩・小説等の長文)

【同人】【読者】不問。作品を拝見させていただいた上で有料掲載のご相談にお答えしています。1ページあたりの掲載費用は字数によって変わりますが特集号(P.96参照)に準じたものになります。原稿返送用切手貼付の封筒を添えて作品を郵送して下さい(メール連絡可)。
〒332-0015 川口市川口4-3-18 マイ詩集 作品企画係

作詞/自由詩/短歌/小説その他の個人作品集

【同人】【読者】不問(P.96参照)。掲載希望作品を同封して、編集デザインのご希望等をご相談下さい(メール連絡可)。
〒332-0015 川口市川口4-3-18 マイ詩集 特集号係

マイ
MY詩集は1972年に創刊されました。広く全国に詩の好きな読者がいるほか、出版・放送その他のマスコミ関係、作詞家・作曲家など多数に読まれています。

隔月刊で発行されているMY詩集はパリを本部とする国際逐次刊行物のデータベースシステムに組み込まれ、東京では国立国会図書館に毎号収蔵されて、この時代の文化資源として永久保存されます。

この詩集を作っているのは、同人(発表メンバー)として、隔月刊MY詩集の出版に参加している人たちです。

MY詩集では、本誌誌上に作品を発表している同人たちに、支援のお気持ちを持って参加して下さる方を、お待ちしております。

詩や作詞の好きな方なら、毎号の発表作品が目される機会や同人仲間との交流などを通じて、創作への新たな楽しみがふくらむことでしょう。

隔月刊 詩誌 MY詩集・同人募集

MY詩集の同人として創作活動を希望される方は、次の①②③を新人係へお送り下さい。

① 最近の作品(詩・作詞・短歌・イラスト・写真等) 2点

詩2作品、作詞2作品、詩と作詞1作品ずつ等、組み合わせは自由です。

詩や作詞の長さは、本誌掲載作品を参考にして下さい。

② 今月号の本誌の感想(長さ不問)

③ 住所・氏名・電話番号

新人係からは、次の①または②をお届けします。

①. MY詩集同人として適格の方、次号から参加できる方…

- ・同人推薦書
- ・入会案内書・申し込み書

②. 3~6ヶ月後からMY詩集同人として参加できる方…

- ・準同人推薦書
- ・入会案内書・申し込み書

〒332-0015 埼玉県川口市川口4-3-18 MY詩集 新人係

※メールでも新人係への応募が出来ます(添付書類ではなくテキスト入力して下さい)。
メールの題名: 新人係 本文: 作品1、作品2、感想文、住所氏名電話
editorsroom5@my-shishu.com

新規に入会された方には本誌バックナンバー1年分を無料進呈します
最近号1年分がお手元にある場合は、P.97のバックナンバー一覧から、ご希望の年を選んで書き添えて下さい。

- 「新人係」応募作品は、本誌の募集ルールに準じた作品であれば、入会後に発表用としてあらためて送稿することもできます。「新人係」に送られた作品は、入会申込書の発送時にお返ししています。
- 郵送でもメールでも先着順による返信になり、内容によっては2~3週間かかることもあります。
- MY詩集同人歴5年以上の方が同人に推薦したい方を作品同封でご紹介下さった場合は、同人推薦書だけを紹介者又はご本人にお届けして、入会希望のご連絡をいただいた場合に入会案内書類をお届けします。2作品の紹介については、MY詩集に掲載された読者の方であれば月号とページ数を明記してあれば同封する必要はありません。

〒332-0015 埼玉県川口市川口4-3-18 MY詩集 新人推薦係

本誌最新号代送をご希望の場合は、P100「最新号購読係」で、その方のご住所氏名をお書き添え下さい。



忘れもの

紅くれないに染まる夕映え

落としたものを 大切に手にとる

忘れかけていた

波の音

洗いがされる 憩やすみいの刻

あの貝を手にしたのは いつの頃だったろう

月だけが見ていた

夕暮れの海で

ゆめ